

第275回 日本循環器学会関東甲信越地方会

日 時 令和7年2月8日(土)
会 場 ステーションコンファレンス東京 4・5階 (千代田区)
第I会場 (503CD)
第II会場 (503AB)
第III会場 (501A)
第IV会場 (501B)
第V会場 (402BCD)
PCセンター (501S)
〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12 サピアタワー4～6階
TEL 03-6888-8080

会 長 上尾中央総合病院 心臓血管センター 循環器内科
緒方 信彦

御 案 内

1. 参加費：会員／非会員 (医師) 3,000円
後期研修医、コメディカル 1,000円
初期研修医、医学部学生 無料
※当日、受付にて初期研修医証明書、学生証をご提示下さい。
2. 受付時間：参加受付 8:30-17:50
PCセンター 8:30-17:30
3. 一般演題発表時間：口演5分、討論3分
4. Award：Student Award、Resident Award、Clinical Research Award、Case Report Awardを設け、各Award最優秀賞、優秀賞を顕彰いたします。
選考委員による第一次書類審査による選考後、地方会当日口述発表による第二次審査で審査委員から発表者に対し質疑応答を行います。(口演6分、討論4分)
Student Award：第II会場：16:00-16:50
Resident Award：第II会場：17:00-17:50
Case Report Award：第I会場：17:00-17:50
Clinical Research Award：第I会場：16:00-16:40
なお、以下の項目が審査の対象となります。
 - 1) 正しい医学用語の使用
 - 2) 発表時間の厳守と態度
 - 3) 考察
 - 4) 質問に対する応答
 - 5) 循環器臨床に対する貢献度表彰式は評議員会終了後に評議員懇親会で行います。
5. その他：会場内では携帯電話のスイッチはお切りいただくかマナーモードに設定して下さい。
また、講演中の写真撮影はご遠慮下さい。

託児サービスのご案内：

日本循環器学会関東甲信越支部では、地方会へのご参加の利便を図るため託児サービスを行っております。

評議員会：地方会終了後、第I会場で行います。

(懇親会は5階フロアにて行います。)

次回地方会：第276回地方会は次の通りです。

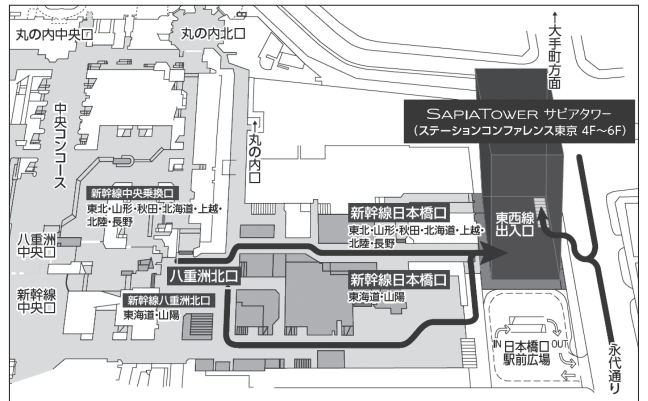
日時：令和7年6月14日(土)

会場：ステーションコンファレンス東京 (千代田区)

会長：井川 修

(セントマーガレット病院 内科・循環器内科)

ステーションコンファレンス東京 案内図



交通のご案内

【JR線・東京メトロ】

「東京駅」日本橋口 (新幹線専用改札口) 徒歩1分

八重洲北口改札口 徒歩2分

東京メトロ東西線「大手町駅」B7 出口から直結

ご挨拶

第275回日本循環器学会関東甲信越地方会

会長 緒方 信彦

医療法人社団愛友会 上尾中央総合病院 心臓血管センター 循環器内科

このたび第275回日本循環器学会関東甲信越地方会の当番会長を拝命しました、上尾中央総合病院の緒方信彦です。当施設は市中一般の教育病院として日常診療を行っておりますので、今回はアカデミアとは異なる視点から日常診療と臨床現場におけるテーマを中心として企画させて頂きました。

会長企画セッションⅠとして、「心不全パンデミック時代の地域連携診療」を企画しました。増加の一途を辿る心不全患者を急性期から終末期まで一貫して同じ医療者が関わることは一般に困難であり、病気のステージや患者さんの生活に合わせた連携協働は不可欠です。また増加するがんサバイバーに関わる腫瘍循環器では循環器専門医のみで完結不可能であると考えます。本セッションでは、腫瘍循環器、地域医療、栄養と薬物治療をテーマにご講演いただく予定です。つぎに会長企画セッションⅡでは、政策としての医療を含めた官民連携と、医療機関経営の視点から医療の付加価値や持続可能性の向上の2つのテーマにスポットライトを当てました。普段学会ではあまり触れる機会の少ない分野の話題提供となると考えます。会長企画セッションⅢでは、カテーテル治療の話題として本年国内へ導入されるパルスフィールドアブレーションに関わる話題提供の機会を設けました。高周波やクライオアブレーションとの対比を議論予定です。

この他教育セッションでは、心臓超音波検査やACS に対するprimary PCI という臨床現場で教育的優先度が高いテーマを設けました。研修医セミナーでは、働き方改革時代を迎えていますますます多様化する若手医師のキャリアパスに目を向けて、各フィールドで活躍中のロールプレイヤーからご講演を頂く情報提供の場とさせて頂きました。併せて心不全療養指導士セッションも開催いたしますので、心不全診療に関わるメディカルスタッフの皆様にも、積極的にご参加頂けると幸いです。

5年が経過し遷延する世界的なパンデミックにより、社会経済活動のみならず学術的な交流も大きなパラダイムシフトを迎えつつあります。医療現場ならびに学会開催を取り巻く環境が厳しい昨今ですが、今後続く新たなテーマが想起される魅力ある地方会となれば幸いです。ご参加ならびに活発な討論をお願い申し上げます。

【発表者の方へ】

発表はすべてPCプレゼンテーションとなりますので、二次元コードより要領をご確認の上、ご発表の30分前までにPCセンターへお越し下さい。



第275回 日本循環器学会関東甲信越地方会

日時：令和7年2月8日（土）

会場：ステーションコンファレンス東京 4・5階（千代田区）

会長：上尾中央総合病院 心臓血管センター 循環器内科 緒方 信彦

第Ⅰ会場		第Ⅱ会場		第Ⅲ会場		第Ⅳ会場		第Ⅴ会場	
8:50	開会挨拶								
9:00	会長企画セッションⅠ 心不全パンデミック 時代の地域連携診療 演者：岡 亨、 横山 広行、 鈴木 規雄	9:00 一般演題 静脈/大動脈		9:00 一般演題 不整脈/末梢血管/肺 高血圧		9:00 一般演題 心不全			
		9:50 P7		9:50 P12		9:50 P16		9:30 一般演題 虚血性心疾患 1	
10:30		9:50 一般演題 デバイス		9:50 一般演題 心内膜炎/心膜・腫 瘍/腫瘍循環器		9:50 一般演題 弁膜症 1		10:20 P20	
		10:30 P8		10:30 P13		10:30 P17			
10:40	教育セッションⅠ 心エコーの基本と活 かし方 演者：佐々木 俊輔、 吉敷 香菜子、 泉 佑樹、 望月 泰秀	10:40 会長企画セッションⅡ 循環器診療の未来を 考える 演者：桑原 政成、 中尾 浩一		10:40 学術委員会企画 セッション 本邦のリアルワールドエ ビデンスを考えるー日本 循環器学会関連学会が 行っている研究を知るー 演者：横山 美帆、 佐藤 希美、 香坂 俊、 中村 統規		10:35 一般演題 弁膜症 2 / 先天性 P17		10:30 一般演題 虚血性心疾患 2 P20	
		12:10 P8		12:10 P13		11:15		11:10	
12:10						11:20 一般演題 全般的問題/その他		11:20 一般演題 虚血性心疾患 3	
		12:10 P4		12:10 P13		12:10 P18		12:10 P21	
12:20	ランチョンセミナー 1 最新の心不全診療 演者：牧 尚孝 共催：日本ペーリンガー インゲルハイム/ 日本イーライリリー	12:20 ランチョンセミナー 2 私の冠動脈診療を一変させた 症例から見る脂質管理 ～臨床的にホモ接合体家族性高コレス テロール血症と診断した1例の経験～ 演者：八島 史明 共催：Ultragenyx Japan		12:20 ランチョンセミナー 3 ASにおけるTAVIデバイ スの差別化と適応戦略 演者：坂倉 建一、 桃原 哲也 共催：日本メドトロニック		12:20 ランチョンセミナー 4 心アミロイドーシス治 療の今とこれから 演者：堀内 優 共催：ファイザー		12:20 ランチョンセミナー 5 弁膜症診療の温故知新 演者：野々上 明、 小此木修一 共催：エドワーズライフ サイエンス	
13:10		13:10 P9		13:10 P14		13:10 P19		13:10 P22	
13:20	教育セッションⅡ ACSの至適治療戦略 演者：藤田 英雄、 日比 潔、 鳥居 翔、 中田 淳	13:20 成人先天性心疾患 セッション (日本循環器学会学術 委員会教育セッション) 症例を通じて学ぶ成人 先天性心疾患の診療 演者：郡山 恵子、 狩野 実希、 後藤 耕策		13:20 会長企画セッションⅢ 不整脈診療の新たな 展開・パルスフィール ド vs Cryoballoon vs 高周波アブレーション 演者：河村 岩成、 横山 正明、 稲村 幸洋、 深谷 英平		13:20 第22回ダイバーシティ・ フォーラム/ 第6回U-40部会企画 セッション 循環器アカデミー 基本検査編 演者：新井 陸、 阿部 拓朗、 鈴木 紀子		13:20 一般演題 心筋炎・心筋症 1 P22	
		14:50 P4		14:50 P14		14:50 P19		14:00 P22	
14:50								14:05 一般演題 心筋炎・心筋症 2 P23	
15:00	デザートセミナー 1 今どきの心不全管理の 論点と心房細動 演者：猪又 孝元 共催：ブリストル・マ イヤーズスクイブ/ ファイザー	15:00 デザートセミナー 2 循環器医師に伝えたい、 動脈硬化化学から考える 脂質低下治療 演者：井上 郁夫 共催：アムジェン		15:00 デザートセミナー 3 CMD診断の有用性 演者：田中 孔明、 植木 康志 共催：アポットメディカル ジャパン		15:00 デザートセミナー 4 [生命予後改善を目指した心腎不 全治療戦略ーデータドリフトの 適応メカニズムを再考するー] 演者：重城 健太郎 共催：小野薬品工業/ アストラゼネカ		14:45 P23	
15:50		15:50 P5		15:50 P14		15:50 P19		14:50 一般演題 心筋炎・心筋症 3 P24	
16:00	Clinical Research Award	16:00 Student Award		16:00 研修医セミナー 循環器内科の多様なキャ リアパスを見てみよう 演者：舟橋 紗耶華、 弓野 大、 青木 二郎		16:00 心不全療養指導士 セッション 心不全療養指導士の資 格を現場でどう活かすか 演者：赤池 沙織、 大島まゆ美		15:50 医療安全・医療倫理 に関する講習会 (DVDセッション)	
16:40		16:50 P9		17:00 P15		17:00 P19			
17:00	Case Report Award	17:00 Resident Award							
17:50		17:50 P10							
17:50	閉会挨拶								
18:00	評議員会								

【専門医単位登録に関して】

専門医単位に関するセッション（地方会参加単位、教育セッション、医療安全・医療倫理に関する講習会）は、セッション開始前に単位登録手続デスクへお越しくださいますようお願い申し上げます。

セッション終了後には単位のご登録ができないためご注意ください。

また地方会参加単位登録（5単位）、教育セッション（3単位）、医療安全・医療倫理に関する講習会（2単位）はそれぞれ単位の登録手続きを行っていただく必要があります。

お手数ですがそれぞれの単位のご登録をお願いいたします。

■「地方会参加単位」（5単位）受付時間 9:00～17:50（開催終了まで）

■「教育セッション」（3単位）受付時間 10:10～11:40 / 12:50～14:20（開始30分前から終了30分前まで）

■「医療安全・医療倫理に関する講習会」（2単位）受付時間 15:20～17:20（開始30分前から終了30分前まで）

第 I 会場

会長企画セッション I

9:00-10:30

座長 (上尾中央総合病院心臓血管センター) 一色 高明

座長 (帝京大学医学部附属溝口病院循環器内科) 鈴木 伸明

心不全パンデミック時代の地域連携診療

がん専門病院における腫瘍循環器診療と地域連携の必要性

(埼玉県立がんセンター総合内科) 岡 亨

心不全パンデミック時代における地域の家庭医が関わる地域連携パスを考える

(横山内科循環器科医院) 横山 広行

心不全診療の地域連携における栄養療法と薬物療法の可能性

(聖マリアンナ医科大学循環器内科) 鈴木 規雄

教育セッション I

10:40-12:10

座長 (川崎幸病院心臓病センター循環器内科) 佐々木俊輔

座長 (東京ベイ・浦安市川医療センター循環器内科) 加藤奈穂子

心エコーの基本と活かし方

SHDにおける経食道心エコー

(川崎幸病院心臓病センター循環器内科) 佐々木俊輔

ASD/PFOに活かす 心房中隔欠損の診断と治療における心エコーの役割

(榊原記念病院小児循環器内科) 吉敷香菜子

(榊原記念病院)

齋藤 美香、泉 佑樹、寺田 舞、前川原慧則

矢崎 諭

肥大型心筋症の心エコー図

(榊原記念病院循環器内科) 泉 佑樹

心不全診療に心エコー図を活かすために理解すべき事：5選！

(昭和大学医学部内科学講座循環器内科学部門) 望月 泰秀

ランチオンセミナー 1

12:20-13:10

共催：日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社/日本イーライリリー株式会社

座長 (東京慈恵会医科大学内科学講座循環器内科) 吉村 道博

最新の心不全診療

慢性心不全の標準的薬物治療

(自治医科大学附属さいたま医療センター循環器内科) 牧 尚孝

教育セッション II

13:20-14:50

座長 (東海大学医学部内科学系循環器内科学) 伊苅 裕二

座長 (NTT東日本関東病院循環器内科) 安東 治郎

ACSの至適治療戦略

病院前心電図 (Prehospital ECG) の役割

(自治医科大学附属さいたま医療センター循環器内科) 藤田 英雄

イメージングから見た、血栓吸引療法/末梢保護デバイスの必要なACS症例、最適な使用方法

(横浜市立大学医学部循環器内科学) 日比 潔
(横浜市立大学附属市民総合医療センター) 岡田 興造、菅野 晃靖
(横浜市立大学附属病院) 岩橋 徳明

Primary PCIにおけるSheath to Balloon Time短縮のための工夫 SPEEDY PCI studyの結果を中心に

(東海大学医学部附属病院循環器内科学) 鳥居 翔
伊莉 裕二

ショックACS治療におけるMCSの役割

(日本医科大学付属病院心臓血管集中治療科) 中田 淳

デザートセミナー 1

15:00-15:50

共催： Bristol-Myers Squibb株式会社/ファイザー株式会社

座長 (慶應義塾大学医学部循環器内科) 家田 真樹

今どきの心不全管理の論点と心房細動

(新潟大学大学院医歯学総合研究科循環器内科学) 猪又 孝元

Clinical Research Award

16:00-16:40

座長 (日本医科大学大学院医学研究科循環器内科学分野) 清水 渉
座長 (防衛医科大学校循環器内科) 足立 健
審査委員長 (千葉大学大学院医学研究科循環器内科学) 小林 欣夫
審査委員 (埼玉医科大学国際医療センター心臓内科) 中埜信太郎
審査委員 (東京大学医学部附属病院循環器内科) 武田 憲文
審査委員 (東京新宿メディカルセンター循環器内科) 谷地 織

I-1 ECPELLA を用いた心原性ショックを呈する急性心筋梗塞患者に対する予後調査：J-PVADからの報告

(日本大学医学部附属板橋病院) 新井 陸
村田 伸弘、齋藤 佑記、小嶋 啓介、深町 大介、
奥村 恭男

I-2 持続点滴からの早期離脱は入院心不全患者におけるせん妄発症頻度を低下させる

(東京大学医学部附属病院循環器内科) 曾和 裕之
武田 憲彦
(東京大学医学部附属病院循環器内科/東京警察病院循環器内科) 上田 和孝
(東京警察病院循環器内科) 丹下 徹彦、奈良 有悟、門平 忠之、金子 光伸、
寺井 知子、笠尾 昌史
(愛知医科大学病院循環器内科) 中野 雄介
(愛知医科大学病院循環器内科/名古屋ハートセンター循環器内科) 鈴木 頼快

I-3 冠動脈疾患患者におけるX線と超音波によるアキレス腱厚測定と比較

(信州大学医学部附属病院循環器内科) 板垣 惟
植木 康志、井口 純子、春原 大輔、翁 佳輝、
能見 英智、加藤 太門、三枝 達也、
海老澤聡一朗、桑原宏一郎
(伊那中央病院循環器内科) 小山 由志

I-4 発生的に部位毎に異なる冠動脈周囲脂肪の局所性状評価と、隣接する冠動脈プラークとの関連の検討

(国際医療福祉大学医学部医学科) 富田 徳篤
(千葉西総合病院放射線部) 宿谷 篤
(千葉西総合病院循環器内科) 赤座 慎、川邊 陽久、小林 奨、河合 謙、
三角 和雄
(国際医療福祉大学循環器内科) 河村 朗夫
(国際医療福祉大学市川病院循環器内科) 船橋 伸禎

座長 (東邦大学大学院医学研究科循環器内科学) 池田 隆徳
 座長 (昭和大学藤が丘病院循環器内科) 鈴木 洋
 審査委員長 (聖マリアンナ医科大学循環器内科) 明石 嘉浩
 審査委員 (昭和大学医学部内科学講座循環器内科学部門) 新家 俊郎
 審査委員 (湘南大磯病院循環器内科) 高橋佐枝子
 審査委員 (帝京大学医学部内科学講座・循環器内科) 上妻 謙

I-5 冠動脈形成術後造影剤脳症を発症した一例

(東京通信病院循環器科)

與久田直聡

一戸 能麿、松木あゆみ、山中 哲雄、東谷 勉昭、

深津 徹

(東京通信病院神経内科)

坂内 太郎

I-6 新規バリエーションの機能解析により確定診断し得たPRKAG2症候群の一例

(東京大学医学部附属病院循環器内科)

蛭間 貴司

阿部 遼、武城 千恵、石田 純一、網谷 英介、

武田 憲文、森田 啓行、武田 憲彦

(東京大学医学部附属病院循環器内科/東京大学医学部附属病院先端循環器医学講座)

井上 峻輔、候 聡志、野村征太郎

(東京大学医学部附属病院循環器内科/東京大学医学部附属病院高度心不全治療センター)

波多野 将

(東京大学医学部附属病院先端循環器医学講座/国際医療福祉大学)

小室 一成

(東京大学医学部附属病院病理診断科)

阿部 浩幸

(東京大学医学部附属病院心臓外科)

小野 稔

I-7 経カテーテル生検により診断に至った肺動脈内膜肉腫の一例

(杏林大学医学部付属病院循環器内科)

奥田 奈央

菊池 華子、竹内かおり、伊波 巧、合田あゆみ、

河野 隆志、副島 京子

I-8 oozing ruptureを来した重急性期心筋梗塞症例の左室内血流を4D Flow MRIを用いて評価した一例

(埼玉県済生会加須病院循環器内科)

西岡 拓哉

河西 寛子、藤田 元博、福島 博、菊池 保宏、

木村 祐也、新井 清仁、寺嶋 豊

(埼玉県済生会加須病院放射線科)

木村 雅子、三井田和夫

I-9 2度の出産の経過を追えたone and a half repairの1例

(自治医科大学附属病院循環器内科)

小淵 雄大

甲谷 友幸、藤村 研太、久保田香菜、今井 靖、

菊尾 七臣

(自治医科大学附属病院小児科)

関 満

第Ⅱ会場

一般演題セッション1 静脈/大動脈

9:00-9:50

座長 (SUBARU健康保険組合太田記念病院循環器内科) 安齋 均

座長 (東邦大学医療センター大橋病院循環器内科) 池田 長生

コメンテーター (東海大学医学部付属病院循環器内科) 中村 則人

Ⅱ-1 深部静脈血栓症に対してIndigo System®を用いた血栓吸引を施行し、良好な転帰を得た一例

(SUBARU健康保険組合太田記念病院循環器内科)

香村 直輝

鮫島 雄祐、横森 広樹、齋藤理香子、渡邊 宏哉、

齊藤 翔太、北野 奨真、矢部 顕人、武中 宏樹、

根本 尚彦、安齋 均

Ⅱ-2 デジタルX線動画撮影システムが治療効果判定に有用であった急性肺血栓塞栓症の一例

(荏原病院循環器内科)

二宮 寛興

青木 淳平、黒光 貴俊、阿部 雄一、野池 亮太、

細野 啓介、冠木 敬之、戸田 幹人、日吉 康長

Ⅱ-3 嚢状膝窩静脈瘤内の血栓により急性肺血栓塞栓症を来した1症例

(東京慈恵会医科大学附属第三病院循環器内科)

塩沢 祐衣

三田 光慶、古賀 堇、森田 哲朗、王 琢矢、

吉田 律、香山 洋介、宮永 哲、芝田 貴裕

(東京慈恵会医科大学附属病院循環器内科)

吉村 道博

Ⅱ-4 Stanford B型大動脈解離の超急性期治療後にステントグラフト治療を施行した症例

(東京都健康長寿医療センター循環器内科)

米山 雅彦

十菱 千尋、坪光 雄介、石川 譲治、原田 和昌

(東京都健康長寿医療センター心臓血管外科)

村田 知洋、乾 明敏、河田 光弘

Ⅱ-5 大動脈周囲炎との鑑別および初期治療に難渋した大動脈周囲膿瘍の一例

(日本医科大学循環器内科)

瀬崎あやの

久保田芳明、坪 宏一、鈴木 裕貴、中村 広一、

内山沙央里、高圓 雅博、浅井 邦也

(日本医科大学放射線科)

上田 達夫

(日本医科大学臓血管外科)

宮城 直人

Ⅱ-6 バルサルバ洞動脈瘤による右冠動脈の圧排により急性心筋梗塞を発症した1例

(多摩総合医療センター循環器内科)

飯島 千博

宮部 倫典、藤井 駿、田中 西佳、三輪 裕仁、

守井 悠祐、立石 桜、櫻井進一朗、三ツ橋佑哉、

磯貝 俊明、加藤 賢

一般演題 セッション2 デバイス

9:50-10:30

座長 (国際医療福祉大学三田病院心臓血管センター) 合屋 雅彦
座長 (さいたま赤十字病院循環器内科) 稲葉 理
コメンテーター (上尾中央総合病院不整脈科) 北村 健

II-7 高度房室ブロックに対する恒久的ペースメーカー移植術後にTwiddler's症候群を合併し再手術を要した1例
(千葉労災病院循環器内科) 原田 悠斗
時政 聡、竹内 峻、牧之内 崇、浅野 達彦、
山内 雅人

II-8 リードレスペースメカによるペーシング誘発性心筋症に対して心臓再同期療法が有効であった一例
(北里大学病院循環器内科) 日下部裕胤
小林 周平、池田 祐毅、中村 洋範、石末 成哉、
深谷 英平、阿古 潤哉

II-9 心臓デバイス感染による敗血症性ショック後に腹部リードを用いて再植え込みを行い良好な経過を辿った一例
(広尾病院循環器科) 本間 正直
山岡広一郎、横関 文弥、砂川 昌隆、津野 航、
水沼 吉章、佐々木高史、鯨岡 裕史、新井 智之、
吉田 精孝、笠野 健介、高橋 正雄、北條林太郎、
土山 高明、深水 誠二

II-10 DDDペースメーカー留置5か月後に急性細菌性心膜炎を発症した一例
(SUBARU健康保険組合太田記念病院循環器内科) 横森 広樹
渡邊 宏哉、齋藤理香子、齊藤 翔太、北野 奨真、
鮫島 雄祐、矢部 顕人、武中 宏樹、根本 尚彦、
安齋 均

II-11 経皮的動脈弁置換術後にペースメカのリード穿孔を認めたが、経皮的にデバイス抜去し得た症例の検討
(信州大学医学部附属病院循環器内科) 佃 柊磨
岡田 綾子、田中 気宇、小林 秀樹、植木 康志、
南澤 匡俊、吉江 幸司、小口 泰尚、加藤 太門、
三枝 達也、海老澤聡一郎、桑原宏一郎

会長企画セッションII

10:40-12:10

座長 (上尾中央総合病院心臓血管センター循環器内科) 緒方 信彦
座長 (済生会川口総合病院循環器内科) 高木 厚

循環器診療の未来を考える

官民連携での循環器病対策の推進を願って

(自治医科大学公衆衛生学兼循環器内科学) 桑原 政成

経営視点から考える循環器診療の「価値」と「持続可能性」

(済生会熊本病院心臓血管センター循環器内科) 中尾 浩一

ランチョンセミナー 2

12:20-13:10

共催：Ultragenyx Japan株式会社
座長（順天堂大学医療科学部臨床検査学科）小倉 正恒

私の冠動脈診療を一変させた症例から見る脂質管理

～臨床的にホモ接合体家族性高コレステロール血症と診断した1例の経験～
（済生会宇都宮病院循環器内科） 八島 史明

成人先天性心疾患セッション（日本循環器学会学術委員会教育セッション）

13:20-14:50

座長（東京大学医学部附属病院循環器内科）相馬 桂
座長（東京女子医科大学循環器小児科）石戸美妃子

症例を通じて学ぶ成人先天性心疾患の診療

多くの循環器内科医が診療しうる大動脈二尖弁患者の妊娠について

（北里大学医学部循環器内科学） 郡山 恵子
小坂橋俊美、加古川美保、藤田 鉄平、前川 恵美、
阿古 潤哉

フォロー四徴症患者の術後遠隔期の諸問題

（さいたま赤十字病院循環器内科） 狩野 実希

チアノーゼ性心疾患患者の外来診療の注意点

（東京大学医学部附属病院循環器内科） 後藤 耕策
相馬 桂、武田 憲彦
（東京大学医学部附属病院小児科） 犬塚 亮

デザートセミナー 2

15:00-15:50

共催：アムジェン株式会社
座長（埼玉県立循環器・呼吸器病センター循環器内科）宮本 敬史

循環器医師に伝えたい、動脈硬化学から考える脂質低下治療

（埼玉医科大学病院） 井上 郁夫

Student Award

16:00-16:50

座長（東海大学医学部内科学系循環器内科学）伊苺 裕二
座長（自治医科大学附属さいたま医療センター循環器内科）藤田 英雄
審査委員長（信州大学医学部循環器内科学教室）桑原宏一郎
審査委員（北里大学医学部循環器内科学）阿古 潤哉
審査委員（筑波大学医学医療系循環器内科）石津 智子
審査委員（東邦大学医療センター大橋病院循環器内科）原 英彦

II-12 経カテーテル大動脈弁留置術後に発症した僧帽弁輪旋回型心房頻拍の一例

（帝京大学医学部医学科） 森 裕香
（帝京大学医学部内科学講座循環器内科） 太田 龍哉、近藤 彬令、藏本 怜、初野 弥奈、
筒井 健太、上妻 謙

II-13 卵円孔開存閉鎖デバイスの内膜被覆後における残存シャント発生例の検討

（聖マリアンナ医科大学医学部） 李 英麗
（聖マリアンナ医科大学循環器内科） 貝原 俊樹、瀧澤 栞、庄司 達朗、小田隆太郎、
宮原 大輔、佐藤 如雄、桑田 真吾、出雲 昌樹、
石橋 祐記、田邊 康宏、明石 嘉浩

II-14 ファロー四徴症術後患者の心臓超音波検査、MRI所見の比較検討
 (自治医科大学医学部医学科) 神谷 茂之
 (自治医科大学内科学講座循環器内科学) 河村 出、里中 利帆
 甲谷 友幸、藤村 研太、久保田香菜、今井 靖、
 苅尾 七臣
 (自治医科大学小児科) 横溝亜希子、関 満

II-15 肺塞栓との鑑別を要した右室梗塞の一例
 (横浜市立大学循環器内科) 熊谷 凌
 桐ヶ谷 仁、花島 陽平、桐ヶ谷英邦、松下 絢介、
 郷原 正臣、岡田 興造、小菅 雅美、海老名俊明、
 菅野 晃靖、日比 潔

II-16 睡眠時無呼吸症候群に対してCPAPを導入し、薬物治療から離脱可能となった頻発性心室期外収縮患者の1例
 (順天堂大学医学部医学科) 須藤 愛美
 (順天堂大学大学院医学研究科循環器内科学講座) 加藤 隆生、安島 鵬飛、松本 紘毅、須田 翔子、
 内藤 亮、林 英守、南野 徹
 (順天堂大学大学院医学研究科循環器内科学講座/
 順天堂大学大学院医学研究科心血管睡眠呼吸医学講座) 葛西 隆敏

Resident Award

17:00-17:50

座長 (東京女子医科大学循環器内科) 山口 淳一
 座長 (日本大学病院循環器内科) 松本 直也
 審査委員長 (慶應義塾大学医学部循環器内科) 家田 真樹
 審査委員 (相模原病院循環器内科) 森田有紀子
 審査委員 (獨協医科大学埼玉医療センター循環器内科) 田口 功
 審査委員 (山梨大学医学部附属病院循環器内科) 佐藤 明

II-17 収縮性心膜炎を併発した心膜浸潤により再発が判明した中枢神経原発びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫の一例
 (虎の門病院循環器センター内科) 松島 孝英
 土屋 亮、藤本 陽、小宮山知夏、播磨 綾子、
 森瀬 昌裕、伊東 秀崇、大森 奈美、太田 光彦、
 西山 信大、山口 徹雄、児玉 隆秀
 (虎の門病院循環器センター外科) 田端 実、松山 重文

II-18 急性に著明な肺高血圧症を呈し、生前に肺腫瘍血栓性微小血管症(PTTM)と診断し得た症例
 (東京都健康長寿医療センター循環器内科) 孫田 皓康
 小松 俊介、坪光 雄介、二見崇太郎、石川 譲治、
 原田 和昌
 (東京都健康長寿医療センター救急科) 青景 聡之
 (東京都健康長寿医療センター病理診断科) 神野 聖也、永坂 拓也、小松 明子、新井 富生
 (東京都健康長寿医療センター緩和ケア内科) 中島 豪

II-19 右室ペーシングが心不全コントロールに有用であった僧帽弁狭窄症合併閉塞性肥大型心筋症の一例
 (昭和大学藤が丘病院臨床研修センター) 光成 友希
 (昭和大学藤が丘病院循環器内科) 大村 歩、辻内 美希、間瀬 浩、土至田 勉、
 倉田 征昭、小貫 龍也、江波戸美緒、鈴木 洋
 (昭和大学藤が丘病院循環器内科/昭和大学藤が丘病院集中治療科) 佐藤 督忠

- II-20 免疫関連有害事象（irAE）心筋炎に合併した冠攣縮性狭心症の1例
（上尾中央総合病院初期臨床研修センター） 中原 英里
（上尾中央総合病院循環器内科） 田中小百合、瀧本 翔太、増田新一郎、北村 健、
谷本 周三、緒方 信彦、一色 高明
- II-21 COVID-19感染後急性心筋炎を起こし、退院後4日目に急性心筋梗塞を起こした冠リスクの無い30歳代男性の1例
（千葉西総合病院循環器内科） 甲斐 瑠聖
春木 匠悟、三角 和雄
（国際医療福祉大学市川病院循環器内科） 船橋 伸禎

第Ⅲ会場

一般演題 セッション3 不整脈/末梢血管/肺高血圧

9:00-9:50

座長 (自治医科大学循環器内科学・臨床薬理学) 今井 靖

座長 (自治医科大学附属さいたま医療センター循環器内科) 宇賀田裕介

コメンテーター (埼玉医科大学国際医療センター心臓内科・不整脈科) 森 仁

Ⅲ-1 Double ventricular responseに対してカテーテルアブレーションが著効した一例

(東京医科大学病院循環器内科) 山崎 天恵
岡野 智也

Ⅲ-2 心房細動アブレーション後に急性心膜炎を認めた症例

(東京通信病院循環器内科) 金森 悠介
東谷 勉昭、富満 悠葵、松木あゆみ、山中 哲雄、
一戸 能麿、深津 徹
(榊原記念病院循環器内科) 福永 寛

Ⅲ-3 CRT-D植込み時にtemporary pacing testが有効であった非特異的心室内伝導障害の心サルコイドーシスの一例

(上尾中央総合病院循環器内科・不整脈科) 佐橋 秀一
林 健太郎、北村 健
(上尾中央総合病院循環器内科) 下野 里奈、三木 広亮、井原 健人、渡邊健太郎、
田中小百合、宮崎 至、李 勅熙、鍵山弘太郎、
増田新一郎、中島 祥文、新谷 嘉章、小橋 啓一、
中野 将孝、谷本 周三、緒方 信彦、一色 高明

Ⅲ-4 下肢閉塞性動脈硬化症に対するEVTを施行し生体腎移植に成功した一例

(自治医科大学内科学講座循環器内科学部門) 木下 真緒
小古山由佳子、三玉唯由季、鈴木 規泰、
篠原 肇、大場 祐輔、清水 勇人、船山 大、
菊尾 七臣

Ⅲ-5 たこつぼ心筋症と急性冠症候群の合併を繰り返した一例

(埼玉病院) 佐久間一也
井合 渉、玉木 博之、間瀬 太郎、栗原 和人、
磯田 徹、丹羽 直哉、佐藤 篤志、田中 宏明、
鶴見 昌史、小野 智彦、松村 圭佑

Ⅲ-6 健康診断の心電図で発見された成人発症型末梢性肺動脈狭窄の1例

(昭和大学藤が丘病院循環器内科) 杉山 正弥
山内 彰人、辻内 美希、倉田 征昭、江波戸美緒、
鈴木 洋
(昭和大学藤が丘病院集中治療科) 佐藤 督忠、武内 裕希

一般演題 セッション4 心内膜炎/心膜・腫瘍/腫瘍循環器

9:50-10:30

座長 (がん研究会有明病院腫瘍循環器・循環器内科) 志賀 太郎

座長 (国立がん研究センター東病院循環器科) 田尻 和子

コメンテーター (東海大学医学部付属病院循環器内科) 伊地知 健

Ⅲ-7 症候性の心膜液貯留を呈し、精査の結果進行胃癌の診断に至った一例

(土浦協同病院循環器内科)

渡邊 崇弘

金地 嘉久、臼井 英祐、長嶺 竜宏、上野 弘貴、

瀬戸口実玲、左山 耕大、下里 光、角田 恒和

(東京科学大学循環制御内科学)

米津 太志、笹野 哲郎

Ⅲ-8 冠動脈塞栓症を合併したAerococcus urinaeによる感染性心内膜炎の一例

(さいたま市民医療センター循環器内科)

衣川 瑞人

原口裕美子、田島 匠、堀 陽一、笠原 卓、

中村 智弘、百村 伸一

Ⅲ-9 大動脈弁閉鎖不全症の急速な進行を伴った肺炎球菌による感染性心内膜炎の一例

(上尾中央総合病院循環器内科)

井原 健人

小橋 啓一、大藪 早平、田中小百合、宮崎 至、

谷本 周三、緒方 信彦、一色 高明

Ⅲ-10 二尖弁の重症大動脈弁閉鎖不全症に発症したAustrian症候群の一例

(横浜市立大学附属市民総合医療センター心臓血管センター内科/

横浜市立大学附属市民総合医療センター高度救命救急センター)

関矢 圭祐

中山 尚貴

(横浜市立大学附属市民総合医療センター心臓血管センター内科)

郷原 正臣、吉井 智洋、花島 陽平、堤 勝彦、

桐ヶ谷英邦、桐ヶ谷 仁、中橋 秀文、松下 絢介、

木村裕一郎、岡田 興造、菅野 晃靖

(横浜市立大学附属市民総合医療センター心臓血管センター内科/

横浜市立大学附属病院循環器内科)

日比 潔

(横浜市立大学附属市民総合医療センター高度救命救急センター)

竹内 一郎

(横浜市立大学附属市民総合医療センター心臓血管センター外科)

伏見 謙一、大中臣康子、長 知樹、安田 章沢、

内田 敬二

(横浜市立大学附属市民総合医療センター臨床検査科・臨床検査部)

海老名俊明

Ⅲ-11 乳癌化学療法治療中にかん治療関連心機能障害および肺腫瘍血栓性微小血管症を併発した一例

(獨協医科大学埼玉医療センター循環器内科)

岩瀬 太希

華 臻丞、越川 優里、東 彩子、石川 哲也、

中原 志朗、酒井 良彦、田口 功

(獨協医科大学埼玉医療センター循環器内科/獨協医科大学埼玉医療センター超音波センター)

板橋 裕史、小林さゆき

学術委員会企画セッション

10:40-12:10

座長 (聖マリアンナ医科大学循環器内科) 明石 嘉浩

座長 (群馬大学大学院医学系研究科内科学講座循環器内科学分野) 石井 秀樹

本邦のリアルワールドエビデンスを考えるー日本循環器学会関連学会が行っている研究を知るー

日本心臓リハビリテーション学会レジストリー研究 (J-CARRY study)

(順天堂大学大学院医学研究科循環器内科学/日本心臓リハビリテーション学会)

横山 美帆

日本心エコー図学会学術プロジェクト：JSE-TAVIレジストリから得られたエビデンス

(筑波大学医学医療系循環器内科/日本心エコー図学会)

佐藤 希美

CVITのJ-PCIレジストリは皆さんの味方ですー各方面でのデータの活用事例ー
(慶應義塾大学医学部循環器内科/日本心血管インターベンション治療学会) 香坂 俊

日本不整脈心電学会におけるカテーテルアブレーション全国症例登録研究 (J-AB)
(群馬県立心臓血管センター循環器内科/日本不整脈心電学会) 中村 紘規

ランチョンセミナー 3 12:20-13:10 共催：日本メドトロニック株式会社
座長 (群馬県立心臓血管センター循環器内科) 河口 廉
コメンテーター (埼玉県立循環器・呼吸器病センター循環器内科) 村上 彰通
コメンテーター (獨協医科大学病院心臓・血管内科/循環器内科) 廣瀬 優

ASにおけるTAVIデバイスの差別化と適応戦略

最新の文献から読み解くAS診療と治療
(自治医科大学附属さいたま医療センター循環器内科) 坂倉 建一

実臨床から読み解くEvolutの有用性
(千葉西総合病院循環器内科) 桃原 哲也

会長企画セッションⅢ
13:20-14:50

座長 (東京医科大学病院循環器内科) 里見 和浩
座長 (上尾中央総合病院循環器内科・不整脈科) 林 健太郎

不整脈診療の新たな展開・パルスフィールド vs Cryoballoon vs 高周波アブレーション

ディベート開始の鐘を鳴らす、パルスフィールドアブレーションの概説
(東京科学大学病院循環器内科) 河村 岩成

安全・安心な治療を提供する『パルスフィールドアブレーション治療』の幕開け
-Dawn of a new catheter ablation era-

(東京慈恵会医科大学循環器内科) 横山 正明
(東京慈恵会医科大学) 徳竹 賢一、徳田 道史、山下 省吾、吉村 道博、
山根 禎一

やっぱりクライオ、10年経っても大丈夫！
(さいたま赤十字病院循環器科) 稲村 幸洋

匠の技が好きな日本人、みんな結局最後はRFって思っているでしょ？
(北里大学医学部循環器内科学) 深谷 英平

デザートセミナー 3 15:00-15:50 共催：アボットメディカルジャパン合同会社
座長 (足利赤十字病院) 阿部 七郎
座長 (群馬県立心臓血管センター) 河口 廉

CMD診断の有用性

『MINOCA - その鑑別と病態考察 -』
(新潟市民病院) 田中 孔明

『CMD診断・治療の最新のエビデンスと将来展望』
(信州大学医学部附属病院) 植木 康志

研修医セミナー

16:00-17:00

座長 (船橋市立医療センター循環器内科) 青山 里恵

座長 (東海大学医学部付属病院循環器内科) 柳下 敦彦

循環器内科の多様なキャリアパスを見てみよう

下肢閉塞性動脈疾患 (LEAD) 診療・研究に関わる循環器内科女性医師
(杏林大学医学部循環器内科) 舟橋紗耶華

心不全と地域医療：予防から在宅医療の新たなチャレンジ
(医療法人社団ゆみの) 弓野 大

海外留学を自分のキャリアパスにどう生かすか
(聖路加国際病院循環器内科) 青木 二郎

第Ⅳ会場

一般演題 セッション5 心不全

9:00-9:50

座長 (新潟大学大学院医歯学総合研究科循環器内科学) 猪又 孝元

座長 (慶應義塾大学医学部循環器内科) 白石 泰之

コメンテーター (かわぐち心臓呼吸器病院循環器内科) 秋山 英一

Ⅳ-1 抗ミトコンドリア抗体陽性筋炎に起因した心不全の一例

(戸田中央総合病院心臓血管センター内科)

松岡佳和璃

森 かおり、永松 侑樹、堀中 遼、池部 裕寧、

土方 伸浩、元田 博之、湯原 幹夫、小堀 裕一、

武田 和夫

(東京医科大学病院循環器内科)

里見 和浩

Ⅳ-2 労作性狭心症治療後に心不全増悪を繰り返し、トランスサイレチン型心アミロイドーシスの診断に至った1例

(順天堂大学大学院医学研究科循環器内科学講座)

今西 雄貴

加藤 隆生、藤本 雄大、砂山 勉、金子 智洋、

相川 忠夫、内藤 亮、林 英守、南野 徹

Ⅳ-3 確定診断に苦慮した難治性心不全の一例

(東京新宿メディカルセンター)

上西 将之

齋藤 哲也、檜崎 容史、佐藤 弘典、下地 由華、

坂本 知也、谷地 織

Ⅳ-4 薬物療法により電気的および機械的リバーシモデリングを認めた左室収縮機能不全を伴うCLBBBの一例

(前橋赤十字病院心臓血管内科)

西尾 理沙

庭前 野菊、梶原 啓吾、五十嵐宏伸、児玉 智華、

富澤 美夏、岡田 英樹、佐々木孝志、峯岸美智子、

小林 洋明、丹下 正一

Ⅳ-5 治療に難渋した高度肥満患者の心原性ショック症例

(三井記念病院)

三輪晋太郎

堀内 優、桂 茉衣、杉山 晴紀、松本 卓也、

西村 陽平、根本 脩平、権田 勇樹、芦浦 大輝、

阿佐美匡彦、矢作 和之、谷脇 正哲、湯澤ひとみ、

小宮山浩大、田中 旬、田邊 健吾

Ⅳ-6 一人暮らしをしている高齢の慢性心不全患者が療養生活の中で抱えている思いの構造

(新潟大学保健学研究科博士前期課程)

歸山 寛子

(新潟市民病院循環器内科)

土田 圭一

一般演題 セッション6 弁膜症1

9:50-10:30

座長 (上尾中央総合病院心臓血管外科) 堀 大治郎

座長 (帝京大学医学部附属病院循環器内科) 三浦 瑞樹

コメンテーター (聖マリアンナ医科大学循環器内科) 田中 徹

IV-7 Valsalva洞解離による大動脈弁閉鎖不全とValsalva洞—右房シャントにより急性心不全を生じた一例

(成田赤十字病院循環器内科) 木村 優里

橋口 直貴、橘 昌利、松岡 孝明、大野 祐司、

青木 康大

IV-8 再二弁置換術中に輸血関連急性肺障害による肺水腫が疑われ、VV ECMOを導入し救命し得た一例

(東京慈恵会医科大学付属病院心臓外科) 石割 圭一

前田 恵、辻本 貴紀、高木 智充、松村 洋高、

儀武 路雄、長堀 隆一、國原 孝

IV-9 経カテーテル的大動脈弁留置術後の弁周囲逆流で溶血性貧血を認めた1例

(横浜市立大学附属市民総合医療センター心臓血管センター内科) 岩本雄太朗

中橋 秀文、北島 駿、吉井 智洋、花島 陽平、

堤 勝彦、桐ヶ谷英邦、桐ヶ谷 仁、松下 絢介、

郷原 正臣、木村裕一郎、岡田 興造、菅野 晃靖

(横浜市立大学附属市民総合医療センター心臓血管センター内科/

横浜市立大学附属病院循環器内科) 日比 潔

(横浜市立大学附属市民総合医療センター臨床検査科・臨床検査部) 海老名俊明

IV-10 僧帽弁置換術歴のある患者が人工弁脱落による急性心不全を発症した一例

(済生会横浜市東部病院循環器内科) 谷中 夏海

西田 和正、本宮 寛人、藤井陽太郎、村井 篤弥、

瀬戸長雄介、岸田登志彦、深川 知哉、山口 航平、

堤 正和、毛利 晋輔、小林 範弘、伊藤 良明

IV-11 弁尖に腫瘍が付着した超大型大動脈弁輪に経カテーテル的大動脈弁植込み術を安全かつ有効に施行した一例

(順天堂大学医学部附属順天堂医院初期臨床研修医) 荒井実マルコ

(順天堂大学医学部附属順天堂医院循環器内科) 高橋 徳仁、土井信一郎、朱 櫻華、西尾 亮太、

加藤 隆生、岡井 巖、宮崎彩記子、岩田 洋、

藤本進一郎、岡崎 真也、南野 徹

(順天堂大学医学部附属順天堂医院心臓血管外科) 田端 実

一般演題 セッション7 弁膜症2/ 先天性

10:35-11:15

座長 (三井記念病院循環器内科) 阿佐美匡彦

座長 (上尾中央総合病院循環器内科) 中島 祥文

コメンテーター (虎の門病院循環器センター内科) 山口 徹雄

IV-12 大動脈二尖弁(BAV)を合併した上行大動脈瘤の2例

(昭和大学横浜市北部病院心臓血管外科) 赤松 秀信

川幡 大嗣、北尾真友子、中村 圭佑、寺田 拡仁、

中川 博文、奥山 浩、南渕 明宏

IV-13 経カテーテル的大動脈弁埋め込み術(TAVI)後にValsalva洞血栓による急性冠動脈閉塞を発症した1例
 (聖路加国際病院内科) 茂 季哉
 (聖路加国際病院循環器内科) 蟹江 崇芳、高橋 亮也、宮田宏太郎、浅野 拓、
 青木 二郎
 (聖路加国際病院心臓血管外科) 玉木 理仁、阿部 恒平

IV-14 超重症大動脈弁狭窄症による院外心停止に対してバルーン大動脈弁形成術を行いECPELLAを確立し救命した一例
 (成田赤十字病院循環器内科) 深澤 悠輝
 木村 優里、服部浩二郎、田邊 裕也、橋 昌利、
 松岡 孝明、大野 佑司、青木 康大、橋口 直貴

IV-15 一次的な経皮的中隔心筋焼灼術と経カテーテル大動脈弁留置術が有効であった一例
 (筑波大学附属病院循環器内科) 宇治田彩花
 寺内 泰観、平谷 太吾、稲葉 貴久、宇佐美恭平、
 南 健太郎、矢口 拓実、渡部 浩明、星 智也、
 石津 智子

IV-16 慢性低酸素血症に対して経皮的心房中隔欠損閉鎖術(ASDO)が奏功した1例
 (榊原記念病院循環器内科) 村田 道人
 細谷 弓子、福永 寛、樋口 亮介、高見澤 格、
 七里 守、磯部 光章

一般演題 セッション8 全般の問題/その他
 11:20-12:10

座長 (横浜中央病院循環器内科) 大岩 功治
 座長 (上尾中央総合病院循環器内科) 小橋 啓一
 コメンテーター (甲府共立病院循環器内科) 車谷 容子

IV-17 当院でのモニターアラームコントロールチーム(MACT)導入後1年間の活動報告
 (練馬光が丘病院循環器内科) 大久保雄右
 山本 慶、久保田康平、久米 悠介、赤池 永成、
 伴 聡一郎、齋藤 大樹、間瀬 卓顕、佐藤 陽、
 荒尾憲司郎
 (練馬光が丘病院看護部) 片岡かおり

IV-18 右冠動脈造影中にJ波の増高をきたし心室細動に至った一例
 (千葉県総合救急災害医療センター循環器内科) 木村 高志
 橋本 理、高橋 雅史、奥谷 孔幸、若林 慎一、
 山岡 智樹、前川 潤平、前川 祐子、佐野 雅則、
 酒井 芳昭

IV-19 冠動脈瘻に対するコイル塞栓術を低侵襲な遠位橈骨動脈アプローチで施行した2例
 (東海大学医学部付属八王子病院循環器内科) 笠井 智司
 天野 一茂、唐澤 由香、長松 裕史、藤井 敏晴、
 河村 洋太、吉町 文暢
 (東海大学医学部附属病院循環器内科) 伊苺 祐二

IV-20 完全房室ブロック精査中に認めた両側冠動脈瘻の1例
 (日本大学病院循環器内科) 松永 悠路
 門傳 昌樹、瀬戸口俊貴、松本 真明、横山 勝章、
 深町 大介、松本 直也
 (日本大学医学部内科学系循環器内科学分野) 奥村 恭男

IV-21 徐脈精査中に心臓サルコイドーシスおよびunroofed coronary sinus合併三心房心と診断した一例
(東海大学医学部附属八王子病院循環器内科) 牛島 明子
天野 一茂、唐澤 由香、藤井 敏晴、森田 典成、
吉町 文暢
(東海大学医学部附属八王子病院臨床検査科) 村田 光繁

IV-22 血管撮影室での心停止シミュレーションにおける胸骨圧迫比率に影響する因子についての検討
(帝京大学医学部附属溝口病院循環器内科) 田村 直輝
星野 裕明、横井 樹、木村 隆大、池田 佳之、
高橋 慎司、青柳 貴、二川 圭介、白鳥 宜孝、
鈴木 伸明

ランチョンセミナー 4 12:20-13:10 共催：ファイザー株式会社
座長 (上尾中央総合病院循環器内科) 谷本 周三
心アミロイドーシス治療の今とこれから

実臨床における心アミロイドーシス診療の課題と今後の展望
(三井記念病院循環器内科) 堀内 優

第22回ダイバーシティ・フォーラム/ 第6回U-40部会企画セッション
13:20-14:50 座長 (千葉大学医学部附属病院循環器内科) 齋藤 佑一
座長 (埼玉医科大学国際医療センター心臓内科) 森 仁

循環器アカデミー 基本検査編

ER当直での胸痛、ST変化に強くなる
(日本大学医学部附属板橋病院) 新井 陸
奥村 恭男

循環器内科医が見ているレントゲン・CT読影のキモ
(埼玉医科大学総合医療センター心臓内科) 阿部 拓朗

病棟・当直で自信を持って心エコーを使うために ～循環器を志す先生へ～
(千葉大学医学部附属病院循環器内科) 鈴木 紀子

デザートセミナー 4 15:00-15:50 共催：小野薬品工業株式会社/アストラゼネカ株式会社
座長 (獨協医科大学埼玉医療センター循環器内科) 田口 功
『生命予後改善を目指した心腎不全治療戦略 -ダバグリフロジンの適応とメカニズムを再考する-』
(埼玉医科大学総合医療センター心臓内科) 重城健太郎

心不全療養指導士セッション
16:00-17:00 座長 (上尾中央総合病院循環器内科) 谷本 周三
座長 (東京医療学院大学保健医療学部リハビリテーション学科) 秋保 光利

心不全療養指導士の資格を現場でどう活かすか

「循環器領域における多職種連携～ポリファーマシーへの取り組み～」
(上尾中央総合病院薬剤部) 赤池 沙織

「CST (心臓サポートチーム) における多職種連携と栄養管理」
(横浜栄共済病院栄養指導科) 大島まゆ美

第V会場

一般演題 セッション9 虚血性心疾患1

9:30-10:20

座長 (湘南大磯病院循環器内科) 増田 尚己
座長 (春日部中央総合病院循環器科) 中林 圭介
コメンテーター (相模原協同病院循環器内科) 伊藤 大起

V-1 26歳女性に発症した急性心筋梗塞の一例報告

(ひたち医療センター)

近藤 武志
茅野 博行、酒井 陸男、宮田 貴之、小柳 唯

V-2 特発性冠動脈解離に心外膜炎を合併した一例

(済生会川口総合病院循環器内科)

長柄希実子
高木 厚、中尾 優、門脇 拓、渡邊正之介、
菅原 洋平

V-3 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症に合併した巨大冠動脈瘤の1例

(上尾中央総合病院臨床研修センター)

(上尾中央総合病院循環器内科)

岡本 康成
増田新一郎、瀧本 翔太、田中小百合、小橋 啓一、
谷本 周三、緒方 信彦、一色 高明

V-4 デバイス通過が困難な右冠動脈高度石灰化病変に対しIVLとスコアリングバルーンの併用が有用であった一例

(聖隷横浜病院心臓血管センター内科)

長谷川和喜
河合 慧、仙波 貴之、中島 啓介、乗松 東吾、
新村 剛透、芦田 和博

V-5 冠静脈瘤の縫縮閉鎖を併施した右冠動静脈瘻、右冠動脈拡張の1手術例

(高瀬記念病院心臓血管外科)

藤田 智之
大林 民幸

V-6 Impella CP抜去後に腸骨動脈領域の血栓閉塞による急性下肢虚血を来した一例

(横須賀市立うわまち病院)

大橋龍太郎
山脇 理弘、新井 大輝、羽柴 克孝、圓谷 紘乃、
山口 貴宜、米澤 将克、南本 祐吾、荒木 浩、
泊口 哲也、黒木 茂、安達 晃一、布宮 伸、
岩澤 孝昌、沼田 裕一

一般演題 セッション10 虚血性心疾患2

10:30-11:10

座長 (前橋赤十字病院心臓血管内科) 庭前 野菊
座長 (上尾中央総合病院循環器内科) 増田新一郎
コメンテーター (自治医科大学循環器内科) 大場 祐輔

V-7 産後17日で冠動脈解離をきたし、心室細動に至った1例

(総合病院国保旭中央病院)

藤本 悠太
榎田 俊一

V-8 心室頻拍を合併した冠攣縮性狭心症の1例
(東邦大学医療センター大森病院循環器内科研修医) 加藤 千尋
(東邦大学医療センター大森病院循環器内科) 岡田 慈考、佐々木英人、菊島 朋生、櫻井康二郎、
岡 洋佑、相川 博音、小原 浩、橋本 英伸、
矢部 敬之、池田 隆徳

V-9 血管内光干渉断層撮影カテーテルで冠動脈内血栓及び冠攣縮の所見を認めたKounis症候群の一例
(昭和大学医学部内科学講座循環器内科学部門) 齋藤 純
田中 秀彰、井村 康平、千野 沙織、豊崎 瑛士、
小崎 遼太、近藤 誠太、住田 有弘、新家 俊郎

V-10 13回目のPCIで初めてヘパリン起因性血小板減少症 (heparin-induced thrombocytopenia,HIT) を発症した一例
(東邦大学医療センター大橋病院循環器内科) 吉満 優希
新倉 寛輝、鈴木 裕子、福山 千仁、佐藤 学、
林 典行、池田 長生、飯島 雷輔、原 英彦

V-11 難治性VFを合併した心筋梗塞に対し右総頸動脈に送血管挿入し経皮的人工心肺 (VA-ECMO) 確立し救命した1例
(新潟県立新発田病院循環器内科) 田村 匠
加藤 淳、和田 理澄、薄田 英樹、和泉 大輔、
吉田 剛、田辺 恭彦

一般演題 セッション11 虚血性心疾患3

11:20-12:10

座長 (三井記念病院循環器内科) 田邊 健吾
座長 (三郷中央総合病院循環器内科) 永井 泰斗
コメンテーター (東京都済生会中央病院循環器科) 遠藤 彩佳

V-12 留置後20年経過したCypher内に超遅発性ステント血栓症をきたしたST上昇型急性心筋梗塞の一例
(武蔵野赤十字病院) 小井土文香
馬場理沙子、高熊 朗、黄 惠、吉光寺直哉、
松田 和樹、大平 麻貴、小田中勇樹、加地 大悟、
照井 麻央、堀江 知樹、長瀬 将、三澤 透、
宮崎 亮一、金子 雅一、李 哲民、永田 恭敏、
野里 寿史、足利 貴志

V-13 ECPPELLA管理中にImpella CP周囲に多量の血栓を認め、Impella抜去に困難を伴った急性心筋梗塞の一例
(東京科学大学病院循環器内科) 廣井 駿太
菅野 義典、小峰 征也、山本 佑、平澤 憲祐、
米津 太志、前嶋 康浩、笹野 哲郎
(東京科学大学病院心臓血管外科) 田原 禎生、長岡 英気、藤田 知之

V-14 心室中隔穿孔を合併した亜急性心筋梗塞に対しIMPELLAを用いて待機的にパッチ閉鎖術を施行した症例
(墨東病院循環器内科) 松本 万理
須藤 篤史、宮本欧史朗、石塚 祐紀、道浦 悠、
宮本純一郎、伊藤美希子、長友 理樹、青山 拓令、
長塩 憲司、平野 仁士、大橋 浩一、高山 陽、
市原 登、黒木 識敬

V-15 急性冠症候群による急性心不全に対しImpellaを導入し待機的冠動脈バイパス術を施行し良好な転帰を得た一例

(日本大学病院循環器内科)

莫根 康平
八木 司、渡辺 洋司、瀬戸口俊貴、深町 大介、
松本 真明、横山 勝章、松本 直也

(日本大学病院心臓血管外科)

(日本大学医学部内科学系循環器内科学分野)

(日本大学病院救急科)

田岡 誠
奥村 恭男
千葉 宣孝

V-16 心原性ショックで来院したACSに対して血行再建前にImpella CPを留置した1例

(横浜市立大学附属市民総合医療センター心臓血管センター)

悦田浩太郎
花島 陽平、堤 勝彦、桐ヶ谷英邦、桐ヶ谷 仁、
中橋 秀文、松下 絢介、郷原 正臣、木村裕一郎、
岡田 興造、菅野 晃靖、海老名俊明

(横浜市立大学附属市民総合医療センター心臓血管センター/横浜市立大学医学部循環器内科学教室)

日比 潔

V-17 繰り返す冠動脈造影が診断に有効であった小血管に生じた特発性冠動脈解離の一例

(新潟市民病院)

加藤 晃帆
尾崎 和幸、田中 孔明、林 由香、小柳 宣人、
大窪 愛香、原 悠輔、米山晋太郎、柏 麻美、
保坂 幸男、土田 圭一、高橋 和義

ランチョンセミナー 5

12:20-13:10

共催：エドワーズライフサイエンス合同会社

座長 (上尾中央総合病院循環器内科) 中島 祥文

弁膜症診療の温故知新

弁膜症診療の最新トレンド

(埼玉県立循環器・呼吸器病センター循環器内科)

野々上 明

外科医の視点から考える大動脈弁狭窄症治療

(伊勢崎市民病院心臓血管外科)

小此木修一

一般演題 セッション12 心筋炎・心筋症 1

13:20-14:00

座長 (川口市立医療センター循環器科) 國本 聡

座長 (東京新宿メディカルセンター循環器内科) 谷地 織

コメンテーター (日本大学病院循環器内科) 深町 大介

V-18 心不全徴候を初発症状とした抗ミトコンドリア抗体陽性筋炎の1例

(自治医科大学附属病院循環器内科)

土屋 亨規
石山 裕介、藤村 研太、渡邊 裕昭、横田 彩子、
上岡 正志、小形 幸代、荻尾 七臣

(自治医科大学附属病院アレルギー・リウマチ科)

谷 礁、石澤 彩子

V-19 ECPPELLAによる急性期管理を行い救命し得た若年劇症型心筋炎の一例

(昭和大学医学部循環器内科)

半田 直
新家 俊郎、近藤 誠太、大石 庸介、正木 亮多、
豊崎 瑛士、田中 秀彰、小倉 沙綾

V-20 適切なタイミングでImpella5.5へアップグレードして救命できたリンパ球性劇症型心筋炎の1例
 (東京医科大学八王子医療センター循環器内科) 瀧原 主也
 宮本 美聡、山下 裕貴、出口 陽之、竹内 文寿、
 北村 美樹、手塚 太陽、大西 将史、嘉澤脩一郎、
 岩崎 陽一、三樹 祐子、山田 聡、久保 隆史、
 田中 信大
 (東京医科大学八王子医療センター心臓血管外科) 仁田 淳、芳賀 真、木村 光裕、神谷健太郎、
 本橋 慎也、赤坂 純逸

V-21 循環補助用ポンプカテーテルIMPELLA CPおよび体外式膜型人工肺 (ECMO) にて救命し得た劇症型心筋炎の1例
 (練馬光が丘病院循環器内科) 久米 悠介
 山本 慶、久保田康平、岩崎 俊充、大久保雄右、
 赤池 永成、伴 聡一郎、齋藤 大樹、間瀬 卓頭、
 佐藤 陽、荒尾憲司郎

V-22 経皮的中隔心筋焼灼術(PTSMa)により左室流出路圧較差が著明に改善した閉塞性肥大型心筋症の1例
 (三宿病院循環器科) 谷口 晋也
 瀧手 庸道、大崎 歩、山家 充起、西田 尚史
 (自衛隊中央病院循環器内科) 木村 豊和、荒川 純子、知識 俊樹

一般演題 セッション13 心筋炎・心筋症2

14:05-14:45

座長 (東京慈恵会医科大学内科学講座循環器内科) 吉村 道博
 座長 (三井記念病院循環器内科) 堀内 優
 コメンテーター (千葉大学医学部附属病院循環器内科) 大門 道子

V-23 ペムプロリズマブ使用後に急性心筋炎を発症しステロイドパルス療法が著効した一例
 (練馬光が丘病院) 久保田康平
 山本 慶、久米 悠介、大久保雄右、赤池 永成、
 伴 聡一郎、齋藤 大樹、間瀬 卓頭、佐藤 陽、
 荒尾憲司郎

V-24 褐色細胞腫に伴うカテコラミン心筋症に対しイバブラジンが有効であった一例
 (立川病院循環器内科) 射手矢 楓
 江頭 徹、山崎 雄友、吉野 優一、中野順之佑、
 伊倉 秀彦、柴田 勝、影山 智己、森谷 和徳、
 三田村秀雄
 (立川病院糖尿病・内分泌代謝内科) 杉山 和俊
 (立川病院精神神経科) 桑原 達郎

V-25 急速な経過で病態が進行した心サルコイドーシスの一例
 (山梨大学医学部循環器内科) 清瀬 威
 大森 一平、吉崎 徹、川村 磧人、朝比奈千沙、
 佐藤 明

V-26 左心房に著明なFDG集積を認めた発作性心房細動合併の心臓限局性サルコイドーシスの一例
 (平塚共済病院) 中田 光宥
 秋吉 基光、新井 亮太、岡澤 紘子、吉川 宏、
 羽生 佳弘、飯 宗弘、荒木 恵子、岩井 慎介、
 小林 一士、大西 祐子
 (東京科学大学病院) 笹野 哲郎

- V-27 Shark fin signを示し心原性ショックのためにECPELLAを要した両室型たこつほ症候群の一例
 (千葉大学医学部医学科) 竹田 寛太
 (千葉大学医学部付属病院循環器内科) 小野 亮平、加藤 賢、青木 薫子、加藤 央隼、
 岩花 東吾、小林 欣夫

一般演題 セッション14 心筋炎・心筋症3

14:50-15:40

座長 (国際医療福祉大学三田病院循環器内科) 大門 雅夫
 座長 (順天堂大学大学院医学研究科循環器内科学講座) 末永 祐哉
 コメンテーター (春日部市立医療センター循環器内科) 新井 将

- V-28 CT-ECVが診断に寄与した心アミロイドーシスの一例
 (昭和大学医学部内科学講座循環器内科学部門) 増永 裕輔
 谷澤 宏樹、樋口 聡、大石 庸介、新家 俊郎

- V-29 心停止から蘇生後に診断し酵素補充療法を開始したファブリー病の一例
 (伊勢崎市民病院) 磯部いの八
 樋口 京介、渡邊 真、戸田 和辰、椎名 貴行
 (群馬大学医学部付属病院) 反町 秀美、小板橋紀通、石井 秀樹

- V-30 ベッドサイドモニター心電図でQRS波形が認識できず心停止アラームが持続した劇症型心筋炎の2症例
 (東京女子医科大学病院循環器内科) 大藪謙次郎
 服部 英敏、春木伸太郎、任 芝杏、亀谷 智子、
 岸原 誠、南 雄一郎、山口 淳一

- V-31 ステロイド休薬後に心サルコイドーシスの再燃と頻脈性心房性不整脈した1例
 (東邦大学医学部内科学講座循環器内科分野) 江口 優太
 菊島 朋生、矢部 敬之、大久保 亮、佐地 真育、
 木内 俊介、中西 理子、藤野 紀之、天野 英夫、
 久武 真二、池田 隆徳

- V-32 Stanford A型急性大動脈解離の診断時に発見された左室流出路狭窄に対し左室中隔心筋切除術を行った2症例
 (船橋市立医療センター心臓血管センター循環器内科) 宇川 達貴
 青山 里恵、渡邊 悠斗、堀江 華奈、須藤 洋尚、
 林 智彦、丘 慎清、飯高 一信、内山 貴史、
 岩田 曜、石脇 光、沖野 晋一、福澤 茂
 (船橋市立医療センター心臓血管センター心臓血管外科) 藤井 正彦、櫻井 学、茂木 健司

- V-33 VA-ECMO導入などにより救命し得た高度心筋障害を伴った硫化水素中毒の一例
 (千葉県総合救急災害医療センター循環器内科) 高橋 雅史
 橋本 理、奥谷 孔幸、木村 高志、若林 慎一、
 山岡 智樹、前川 祐子、前川 潤平、佐野 雅則、
 酒井 芳昭

医療安全・医療倫理に関する講習会 (DVDセッション)

15:50-17:50

本セッションでは、第88回日本循環器学会学術集会で収録したプログラムをご覧ください。

一般社団法人日本循環器学会 支部規程

(総則)

第1条 この規程は、一般社団法人日本循環器学会（以下「日本循環器学会」という）各地区の支部（以下「各支部」という）の遵守すべき事項を定める。

(事務局)

第2条 各支部の事務局は、日本循環器学会定款施行細則に定める地区に置く。

(目的および事業)

第3条 各支部は日本循環器学会の目的達成のため次の事業を行う。

- 1) 地方会の開催
- 2) 日本循環器学会国際トレーニングセンター（JCS-ITC）としての講習会等の開催
- 3) 日本循環器学会本部からの委託事項の処理
- 4) その他目的の達成に必要な事業

(会員)

第4条 各支部の会員は、当該地区に所属する日本循環器学会の正会員および準会員とする。

2. 支部名誉会員/支部特別会員/支部顧問等の設置は各支部役員会で定めることとする。

(社員)

第5条 社員とは、日本循環器学会定款及び定款施行細則に基づき選出された各支部に所属する社員をいう。

(支部長)

第6条 各支部に支部長1名を置く。

2. 支部長は定款に基づき選出された支部所属理事の協議で決定し、支部社員総会において報告する。
3. 支部長は支部を統括する。
4. 支部長の任期は2年とし、再任を妨げない。

(支部役員)

第7条 各支部に支部役員を若干名置く。

2. 支部役員は支部所属理事及び支部長の推薦で選出された会員とし、支部長を除いた支部役員を支部社員総会で承認する。
3. 支部役員は、地方会、事業計画・報告、予算・決算、その他支部長の求めに応じて支部運営にあたる。
4. 支部役員の任期は2年とし、再任は妨げない。

(支部監事)

第8条 各支部に支部監事を若干名置く。

2. 支部監事は支部長が候補者を会員から推薦で選出し、支部社員総会で承認する。
3. 支部監事は支部の監査を行い、不正の事実があれば支部社員総会及び日本循環器学会本部に報告する。
4. 支部監事の任期は2年とし、連続して就任できる期数は3期までとする。

(支部幹事)

第9条 各支部に支部幹事を若干名置く。

2. 支部事務局担当幹事およびJCS-ITC担当幹事の設置は必須とする。
3. 支部幹事は支部長が会員から選出する。
4. 支部幹事は支部長を補佐し、役員会/社員総会において会計報告及びJCS-ITC業務の報告等を行う。
5. 支部幹事の任期は支部長の任期に準じ、再任を妨げない。

(支部評議員)

第10条 各支部に支部評議員を置くことができる。

2. 支部評議員は会員から選出する。
3. 支部評議員は支部業務を補佐する。
4. 支部評議員の選出方法/任期/定年等は各支部役員会で定めることとする。

(地方会会長)

第 11 条 各地方会に会長 1 名を置く。

2. 地方会会長は支部役員会の推薦で選出し、支部社員総会において承認する。
3. 地方会会長は地方会を主催し、その経理/事業内容を支部役員会及び支部社員総会に報告する。
4. 地方会会長の任期は、主催地方会にかかる業務が完了するまでとする。

(支部役員会)

第 12 条 支部役員会は、支部役員で構成する。

2. 支部役員会は年 1 回以上開催し、主に以下の事項を扱う。
 - 1) 事業計画・事業報告及び予算・決算の承認
 - 2) 地方会会長の選出
 - 3) 支部運営上重要な規則の承認
 - 4) その他本支部の運営に必要な事項の確認 (JCS-ITC 報告など)
3. 予算もしくは事業計画に大幅な変更が見込まれる場合には臨時支部役員会を開催しなければならない。
4. 支部役員会は支部長が招集し議長となる。ただし支部長に事故あるときは他の支部役員が招集する。この場合、議長は支部役員の協議により選出する。
5. 支部役員会は過半数が出席しなければ、その議事を決議できない。ただし、当該議事につき予め書面をもって意思を表示したもの、および他の支部役員を代理人として表決を委任したものは出席者とみなす。
6. 支部役員会の議事は出席者の多数決をもって決し、可否同数の時は議長の決するところによる。

(支部社員総会)

第 13 条 支部社員総会は、社員で構成する。

2. 支部社員総会は年 1 回以上開催し、主に以下の事項を扱う。
 - 1) 事業計画・事業報告及び予算・決算の確認
 - 2) 決定された支部長の確認
 - 3) 支部役員・支部監事・地方会会長の承認または解任
 - 4) 支部運営上重要な規則の確認
 - 5) その他本会の運営に必要な事項 (JCS-ITC 報告など)
3. 支部社員総会は、支部長が招集し、議長となる。ただし支部長に事故あるときは他の支部役員が招集する。この場合、議長は支部役員の互選により選出する。
4. 支部社員総会は支部社員の過半数が出席しなければ、その議事を決議できない。ただし、当該議事につき予め書面をもって意思を表示したもの、および他の支部会員を代理人として表決を委任したものは出席者とみなす。
5. 支部社員総会の議事は出席者の多数決をもって決し、可否同数の時は議長の決するところによる。

(支部評議員会)

第 14 条 支部評議員会は、支部評議員で構成する。

2. 支部評議員会は年 1 回以上開催し、以下の事項の報告を受ける。
 - 1) 予算・決算
 - 2) 事業計画および事業報告
 - 3) 地方会会長及び地方会開催地
 - 4) 支部長の選出結果
 - 5) その他本会の運営に必要な事項 (JCS-ITC 報告など)
3. 支部評議員会は、支部長が招集し、議長となる。ただし支部長に事故あるときは他の支部役員が招集する。この場合、議長は支部役員の協議により選出する。

(支部事務局業務)

第 15 条 支部事務局業務とは、支部役員会、支部社員総会、支部評議員会の運営、各事業の補助等をいう。

2. 支部事務局業務は、原則支部年会費収入の範囲内で収支均衡に努めなければならない。
3. 支部事務局業務にかかる経費精算の職務権限について、予算内経費精算は、支部事務局担当幹事による確認を必要(事後確認可)とする。予算枠外使用については、20 万円未満が支部長承認、20 万円以上が支部役員会承認を事前に必要とする。
4. 各支部は全事業の会計報告を毎月すみやかに本部事務局に報告することとする。

(地方会)

第16条 各支部は地方会を年1回以上開催する。

2. 地方会に演題を提出する者は原則として会員でなければならない。
3. 地方会収支について、原則、収入の範囲内で費用支出を行うこととし、収支均衡に努めなければならない。
4. 地方会において新たな試みを実施する場合は、事前に地方会会長と支部長で協議を行うこととする。
5. 地方会における参加費等の現金取り扱いについて、不正や過誤が発生しない体制を整えなければならない。
6. 地方会の経費精算は、地方会会長もしくは会長が定めた者が内容を確認したうえで実施する。なお全ての精算を原則地方会終了後2ヵ月以内に完了させること。

(JCS-ITC 講習会)

第17条 各支部はJCS-ITC講習会をJCS-ITC担当幹事が計画を取り纏め、開催する。

2. 講習会収支について、原則収入の範囲内で費用支出を行うこととし、収支均衡に努めなければならない。
3. JCS-ITC講習会に関わる経費精算の職務権限について、予算内経費精算は、JCS-ITC担当幹事による確認を必要(事後確認可)とする。予算枠外使用については、20万円未満が支部長承認、20万円以上が支部役員会承認を事前に必要とする。

附則

- 1) 本規則は、平成27年2月1日から試行期間とし、平成28年4月1日から完全実施とする。
- 2) この規程の改廃は日本循環器学会理事会の議決を経なければならない。

支部コンプライアンス・倫理規程

(目的)

第1条 この規程は、一般社団法人日本循環器学会全支部（以下「支部」という）におけるコンプライアンスに関し基本となる事項を定め、もって健全で適正な学会運営及び社会的信頼の維持に資することを目的とする。

(定義)

第2条 この規程において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- 1) コンプライアンスとは、法令、各支部の諸規則を遵守することをいう。
- 2) 支部役職者とは、支部に所属する支部長・支部役員・支部監事・支部幹事・地方会会長をいう。
- 3) 支部職員とは、支部の事務を担当する職員をいう。
- 4) コンプライアンス事案とは、支部の構成員にかかわる法令又は定款等の本学会諸規則や支部会則等に違反、または違反するおそれのある事案をいう。

(支部役職者及び支部職員の責務)

第3条 支部役職者・支部職員は、支部の定める理念および目標を実現するため、それぞれの責任を自覚し、コンプライアンスの重要性を深く認識するとともに、人権を尊重し、高い倫理観を持って行動しなければならない。

2. 支部役職者・支部職員は、次に掲げることを理由として、自らのコンプライアンス違反行為の責任をのがれることはできない。

- 1) 規程について正しい知識がなかったこと
- 2) 規程に違反しようとする意思がなかったこと。
- 3) 支部の利益に資する目的で行ったこと

附 則

- 1) 本規則は、平成27年2月1日から試行期間とし、平成28年4月1日から完全実施とする。
- 2) この規程の改廃は日本循環器学会理事会の議決を経なければならない。

一般社団法人日本循環器学会 関東甲信越支部運営内規

(総則)

第1条 この内規は、一般社団法人日本循環器学会 支部規程を関東甲信越支部（以下「本支部」という。）において運用するために必要な事項を規定し、円滑な学会活動を推進することを目的とする。

(支部事務局)

第2条 本支部における支部事務局を東京都新宿区笹岡町43 新神楽坂ビル2F 有限会社ビジョンブリッジ内に設置する。

(支部長)

第3条

- 2年毎に行われる理事選出選挙の後、支部規程第6条2項に沿い支部長を決定するが、支部長の任期開始日は7月1日からとする。
- 支部長は日本循環器学会の関東甲信越地区で選出された理事の互選によって決定され、当該年度における本支部の事務を処理する。
- 支部規程第6条の4項に沿い、支部長の任期は2年とし再任を妨げないとするが、本支部における支部長の連続して就任できる期数は2期（通算4年）までとする。
- 支部長は、「支部コンプライアンス・倫理規定」を確認し、その内容を遵守しなければならない。

(副支部長)

第4条 本支部に副支部長1名を置く。

- 副支部長は支部所属理事の中から協議で決定し、支部社員総会において報告する。
- 支部長に事故あるとき、又は支部長が別の支部へ異動したとき、副支部長を新たな支部長とする。この場合の任期は、退任した支部長の任期に準ずる。
- 副支部長は、「支部コンプライアンス・倫理規程」を順守しなければならない。

(支部役員)

第5条

- 支部役員は、支部規程第7条1項に沿い、支部所属理事の他、支部に所属する社員から支部長が推薦した者が務める。
- 支部役員の定数は、本支部においては16名程度とする。内訳としては支部に所属する理事（関東甲信越地区、女性、小児科、外科）とその他の役員とする。
- 支部役員は、関東甲信越地区の理事が推薦する、教授または部長以上の支部所属の社員とし、任期2年で再選は妨げない。関東甲信越地区理事による理事会にて決定する。
- 支部役員は、「支部コンプライアンス・倫理規定」を確認し、その内容を遵守しなければならない。

(支部監事)

第6条

- 支部規程第8条1項に定める支部監事の定数は、本支部においては2名とする。
- 支部規程第8条2項に定める支部監事の選出について、支部長が候補者を社員から選出することとする。なお独立性を鑑み、支部役員、支部幹事との兼務は不可とする。

4. 監事は本支部の会計その他の事務遂行状況の監査を行うものとする。その任期は2年とし、再任はさまたげない
5. 支部監事は、「支部コンプライアンス・倫理規定」を確認し、その内容を遵守しなければならない。

(支部幹事)

第7条

2. 支部規程第9条に定める支部幹事は、本支部においては支部事務局担当幹事1名、JCS-ITC講習会担当幹事1名、ダイバーシティ推進委員会担当幹事1名とし、支部役員との兼務も可能とする。
3. 支部幹事は、「支部コンプライアンス・倫理規定」を確認し、その内容を遵守しなければならない。
4. 支部事務局担当幹事ならびにJCS-ITC担当幹事は、それぞれの業務における月度毎の収支状況をモニタリングし、予算進捗確認を行わなければならない。予算に対し収支悪化の場合は、対策を検討し支部長へ報告すること。また収支改善の場合は、その資金活用方法について検討し支部長へ報告することとする。
5. 支部幹事は、会員の中から選出することとし、関東甲信越地区理事による理事会にて決定する。
6. 支部幹事は、それぞれの業務において投資（JCS-ITC講習会用のマネキン、事務局運営用のパソコン等）が必要な場合は、事業計画、予算において明確化し、支部役員会・支部社員総会において発言し、承認を得なければならない。

(支部評議員)

第8条

2. 支部規程第10条に定める支部評議員は、現任の支部評議員の推薦により選出し、支部評議員会において承認する。
3. 推薦人は、支部評議員会予定日より15日以前に候補者の推薦書を支部事務局へ提出する。
4. 有資格者でありながら推薦人が見当たらない場合は、支部長が推薦人となることが出来る。
5. 支部評議員の被推薦資格は、以下の3項をすべて満たすこととする。
 - 1) 65歳以下で7年以上日本循環器学会会員であること
 - 2) 講師又は医長以上である者、または、本会学術集会において特別講演講師、教育講演講師、シンポジウム、パネルディスカッション、ファイヤーサイドカンファランスの演者を担当したことがあるもの
 - 3) 本支部地方会において過去5年間に3演題以上発表（共同演者でよい）していること。但し、基礎研究者・外科医・小児科医については別途考慮する。

(地方会会長)

第9条

2. 支部規程第11条に定める地方会会長の選出方法は以下のとおりとする。
 - 1) 資格 : 教授または部長以上の本支部評議員
 - 2) 推薦方法 : 評議員による他薦または自薦に基づき、支部長が提案し支部役員会で選出の上、支部社員総会で承認する。
 - 3) 推薦時期 : 支部役員会開催予定日より15日以前に支部長に推薦書を送付する。
3. 地方会会長は、「支部コンプライアンス・倫理規定」を確認し、その内容を遵守しなければならない。
4. 地方会会長は、「臨床研究の利益相反に関する共通指針の細則」に定められた様式の利益相反の自

己申告書を支部長経由で本会へ提出しなければならない。

5. 地方会会長は、地方会開催場所・日程の決定を行う。
6. 地方会の主題および演題の選定および採択は、会長が裁量する。
7. 地方会実施にあたり、会長の推薦にて会長校事務局長を任命してよい。会長校事務局長は、会長からの指示に基づき、地方会運営を補助することとする。
8. 地方会運営にあたる企画会社手数料が過多とならないことを事前に確認しなければならない。
9. 地方会開催にあたり収入の受入れ、費用の精算の為、会長名において専用口座を開設する。口座開設と同時にキャッシュカードを作成する場合は、会長から使用者・保管者を指名し、それ以外のもので利用出来ない体制を構築しなければならない。
10. お届け印、通帳は会長または会長が指名した者が保管する。保管にあたっては必ず施錠し、本人のみが解錠出来る体制としなければならない。

(支部役員会、支部社員総会、関東甲信越地区理事会、支部評議員会)

第10条

2. 支部規程第12条に定める支部役員会は、年1回開催とする。
3. 支部規程第13条に定める支部社員総会は、年1回開催とする。
4. 関東甲信越地区理事による理事会は、年2回開催とする。
5. 支部評議員会は、年3回開催とする

(支部事務局業務)

第11条

2. 支部規程第15条における支部事務局業務は、事務局担当幹事を補佐し、円滑に業務を遂行することを目的として、本業務に従事する人員を支部役員会の承認のもと採用しても構わない。雇用条件の変更がある場合は、支部役員会での承認を必要とする。
3. 上記1項の方法以外に、外部の業者や個人への業務委託を行ってもよい。委託にあたっては支部との間に契約が必須となる。(契約書において、資金管理面での過誤が無いように努めること、不正を行わないことを明記し、不正を行った場合の損害賠償を行う旨、記載すること。)

(地方会)

第12条

2. 支部規程第16条1項に定める地方会について、本支部は毎年4回地方会を開催する。
3. 地方会の名称は、第〇〇回日本循環器学会関東甲信越地方会とする。
4. 本支部地方会に関する事項は、本会の会告及びその他の手段により会員に広報する。また、その抄録データを本会に提出する。
5. 地方会において市民公開講座及び託児室設置を実施する場合は、本支部より、助成金90万円を地方会事務局に交付する。助成金は、経費内訳及び証憑書類の提出を持って交付するものとする。
6. 地方会の参加費は要領に別途定めたとおりとするが、参加費を変更する場合は支部役員会での承認を必要とする。
7. 地方会での寄付の受入は、「寄付金取扱規程」に基づき対応する。
8. 地方会における華美な懇親会の開催を禁じる。
9. 地方会当日の現金(参加費)の取扱いにおいて、不正や過誤が発生しないよう関係するスタッフの教育を十分行わなければならない。

10. 地方会経費の精算は、リスク管理の観点から現金での精算を禁じ、原則請求書対応とする。請求書対応が難しい場合は、企画会社・スタッフによる立替精算を行い、後日レシートや領収書をもとに精算する。
11. 地方会終了後、余剰金が発生した場合、支部管轄の地方会口座に振込し、次回以降の地方会補助金とする。その後、口座は解約する。
12. 非会員の招請者、支部役員への待遇については要領に別途定めたとおりとするが、これ以外の対応を行う場合は、支部役員会での承認が必要とする。
13. 地方会時の専門医単位登録について、本会から明示された「単位登録の運営方法について」に沿って対応しなければならない。
14. 地方会演者は、発表時に定められた様式「利益相反の自己申告書」を提示する必要がある。
15. 本支部地方会会長は、若手循環器専門医の育成を目的として、Student Award、Resident Award、Clinical Research Award、Case Report Award を設け、各賞最優秀演題発表者1名、優秀賞2名を顕彰する。実施要領は別途定めたとおりとする。

(JCS-ITC 講習会)

第13条

2. 年4回のインストラクター一覧更新時に、本会事務局より受領したインストラクター一覧を支部長ならびに幹事に提出すること。
3. JCS-ITC 講習会の事務業務（受講料受付・謝金や立替金の精算 等）については支部事務局において実施する。ただし業務の円滑化を目的として、外部の業者や個人への業務委託を行ってもよい。委託にあたっては支部との間に契約が必須となる。（契約書において、資金管理面での過誤が無いように努めること、不正を行わないことを明記し、不正を行った場合の損害賠償を行う旨、記載すること。）
4. コース開催日程は、各支部ホームページに掲載することとする。
5. 業務管理を明確化することを目的として、JCS-ITC 業務専用の口座を開設してよい。専用口座の取扱については、要領に別途定めたとおり慎重に行う。
6. コース開催時にコースディレクター等が立替精算をした場合は要領に別途定めたとおりに行い、不必要な経費支出は慎むこと。
7. コース終了後、コースディレクターは参加インストラクター・タスクを一覧化し（以下インストラクター・タスク一覧）、各自立替えしたコース開催地までの交通費を纏め、支部事務局（または外部委託している業者・個人）へ提出しなければならない。また、受講料収益と使用経費を一覧化し、コース毎の収支実績を作成し、合せて支部事務局へ提出する。
8. 各コースディレクターがコースに必要な資金を事前に仮払金として引出して使用する場合は、予め仮払金申請書を作成し、JCS-ITC 幹事のメール承認を要する。
なお、ITC 幹事がコースディレクターとなる場合は、支部長のメール承認を要する。
9. 経費精算において、振込対応では無く、上記の仮払金を活用し現金にて謝金精算や立替精算を行う場合は、必ず受領者から支部宛での領収書を頂き、証憑として支部事務局へ提出しなければならない。
10. 支部事務局（または外部委託している業者・個人）は、提出されたインストラクター・タスク一覧、旅費申請書、領収書等に基づき、謝金（交通費・宿泊費含む）・立替金の精算を行う。また謝金源泉税分の納税を行う。（謝金額についてはJCS-ITC 規定に則る。また旅費申請書、領収書等の証憑が無いものの精算は出来ない。）

11. 支部事務局は、収入・経費を取纏め(漏れが無いこと、経費使用理由等が明確であること等を再確認)の上、本部事務局へ提出し会計ソフトへの入力を依頼する。

(支部委員会)

第14条

2. 支部長は、本支部の事業の円滑な推進を図るため必要があると認めるときは、役員会の決議を経て、委員会を設置することができる。なお、これを廃止する場合も同様とする。
3. 前条の委員会は、必要に応じて部会、小委員会を組織することができる。
4. 委員会は、目的、委員構成、業務などを規定した支部委員会内規を作成し、役員会の承認を得なければならない。
5. 委員会は、委員長1名および委員若干名で組織する。
6. 委員長は支部長が支部役員の中から指名し、役員会の議を経て選任する。
7. 必要に応じて委員の中から副委員長を置くことができる。
8. 副委員長、委員は委員長が指名し、役員会の議を経て選任する。

附則

- 1) この内規は、平成27年2月1日から試行期間とし、平成28年4月1日から完全実施とする。
- 2) この内規改正は、支部役員会において審議し、支部社員総会にて決定する。

令和元年9月28日一部改定

令和2年9月5日一部改定

令和5年10月1日一部改定

一般社団法人日本循環器学会 関東甲信越支部 学術委員会内規

(設置)

第1条 関東甲信越支部運営内規第13条に基づき、本支部に一般社団法人日本循環器学会関東甲信越支部学術委員会（以下、「本委員会」という）を置く。

(目的)

第2条 本委員会は、日本循環器学会関東甲信越支部の学術活動を支援することを目的とする。

(組織)

第3条 本委員会は、委員長1名、委員若干名を以って組織する。

(委員)

第4条 委員長は役員とし、役員会の議を経て、支部長が委嘱する。

2. 委員は、委員長が指名し支部長が委嘱する。

3. 委員の任期は2年とし、再任は妨げない。

(委員会)

第5条 本委員会は委員長が召集し、議長となる。

2. 本委員会の審議事項は、役員会に報告し、承認を得なければならない。

(業務)

第6条 本委員会は、第2条の目的達成のために次の業務を行う。

1) 地方会の学術面の向上について検討・協議し、役員会および会長に上申する。

2) その他学術活動に対する支援に必要な業務

(計画・予算)

第7条 委員長は、年度毎に業務計画とその遂行に必要な予算について、当該年度開始前に役員会に諮らなければならない。

(報告)

第8条 委員長は、任期終了時においては、任期中の活動報告を役員会に提出し、次期委員会へ引き継がなければならない。

(改廃)

第9条 この内規の改廃は、役員会の承認を得なければならない。

附 則 この内規は、令和元年9月28日より施行する。

令和2年9月5日一部改訂

一般社団法人日本循環器学会 関東甲信越支部 情報・広報委員会内規

(設置)

第1条 関東甲信越支部運営内規第13条に基づき、本支部に一般社団法人日本循環器学会関東甲信越支部情報・広報・啓発委員会（以下、「本委員会」という）を置く。

(目的)

第2条 本委員会は、本会のホームページやインターネットを利用した学会員への情報の提供、学術成果の社会への公開と還元、国内外の関連学会の情報提供交換等に関する活動を実施することを目的とする。

(組織)

第3条 本委員会は、委員長1名、委員若干名を以って組織する。

(委員)

第4条 委員長は役員とし、役員会の議を経て、支部長が委嘱する。

2. 委員は、委員長が指名し支部長が委嘱する。
3. 委員の任期は2年とし、再任は妨げない。

(委員会)

第5条 本委員会は委員長が召集し、議長となる。

2. 本委員会の審議事項は、役員会に報告し、承認を得なければならない。

(業務)

第6条 本委員会は、第2条の目的達成のために次の業務を行う。

- 1) 学会のホームページの作成、管理及び運用
- 2) インターネットによる本会の情報サービス
- 3) 国内外の関連学会等との情報交換と広報活動
- 4) その他必要な業務。

(計画・予算)

第7条 委員長は、年度毎に業務計画とその遂行に必要な予算について、当該年度開始前に役員会に諮らなければならない。

(報告)

第8条 委員長は、任期終了時においては、任期中の活動報告を役員会に提出し、次期委員会へ引き継がなければならない。

(改廃)

第9条 この内規の改廃は、役員会の承認を得なければならない。

附 則 この内規は、令和元年9月28日より施行する。

令和2年9月5日一部改訂

一般社団法人日本循環器学会 関東甲信越支部 ダイバーシティ推進委員会内規

(設置)

第1条 関東甲信越支部運営内規第13条に基づき、本支部に一般社団法人日本循環器学会関東甲信越支部ダイバーシティ推進委員会（以下、「本委員会」という）を置く。

(目的)

第2条 本委員会は、循環器学分野における男女並びに多種多様人材の共同参画の推進を図り、男女並びに多種多様人材の共同参画の視点に立った教育・研究・就業体制を確立するため、企画・立案・実施に当たることを目的とする。

(組織)

第3条 本委員会は、委員長1名、委員若干名を以って組織する。

(委員)

第4条 委員長は役員とし、役員会の議を経て、支部長が委嘱する。
2. 委員は、委員長が指名し支部長が委嘱する。
3. 委員の任期は2年とし、再任は妨げない。

(委員会)

第5条 本委員会は委員長が召集し、議長となる。
2. 本委員会の審議事項は、役員会に報告し、承認を得なければならない。

(業務)

第6条 本委員会は、第2条の目的達成のために次の業務を行う。
1) 国内外の関連学会・団体等との情報交換および連携
2) 地方会でのダイバーシティ推進セッション等の企画立案・実施
3) その他必要な業務

(計画・予算)

第7条 委員長は、年度毎に業務計画とその遂行に必要な予算について、当該年度開始前に役員会に諮らなければならない。

(報告)

第8条 委員長は、任期終了時においては、任期中の活動報告を役員会に提出し、次期委員会へ引き継がなければならない。

(改廃)

第9条 この内規の改廃は、役員会の承認を得なければならない。

附 則 この内規は、令和元年9月28日より施行する。

令和2年9月5日一部改訂

一般社団法人日本循環器学会 関東甲信越支部 チーム医療委員会内規

(設置)

第1条 関東甲信越支部運営内規第13条に基づき、本支部に一般社団法人日本循環器学会関東甲信越支部チーム医療委員会（以下、「本委員会」という）を置く。

(目的)

第2条 本委員会は、地方会におけるコメディカルとの関わり方の検討および、コメディカル関係の諸学会との連絡調整を行う。

(組織)

第3条 本委員会は、委員長1名、委員若干名を以って組織する。

(委員)

第4条 委員長は役員とし、役員会の議を経て、支部長が委嘱する。

2. 委員は、委員長が指名し支部長が委嘱する。

3. 委員の任期は2年とし、再任は妨げない。

(委員会)

第5条 本委員会は委員長が召集し、議長となる。

2. 本委員会の審議事項は、役員会に報告し、承認を得なければならない。

(業務)

第6条 本委員会は、第2条の目的達成のために次の業務を行う。

1) 地方会におけるコメディカルの位置付けの検討および、コメディカル関係学会との連絡調整をする。

2) 関係諸学会からの依頼に応じて、本委員会において代表の派遣などを選考する。

3) 委員は、関係諸学会への渉外を担当し、外部機関の要請に応じてこれらが主催する会議等に本学会の代表として出席する。

4) その他必要な業務

(計画・予算)

第7条 委員長は、年度毎に業務計画とその遂行に必要な予算について、当該年度開始前に役員会に諮らなければならない。

(報告)

第8条 委員長は、任期終了時においては、任期中の活動報告を役員会に提出し、次期委員会へ引き継がなければならない。

(改廃)

第9条 この内規の改廃は、役員会の承認を得なければならない。

附 則 この内規は、令和元年9月28日より施行する。

令和2年9月5日一部改訂

一般社団法人日本循環器学会 関東甲信越支部 地方会あり方検討委員会内規

(設置)

第1条 関東甲信越支部運営内規第13条に基づき、本支部に一般社団法人日本循環器学会関東甲信越支部地方会あり方検討委員会（以下、「本委員会」という）を置く。

(目的)

第2条 本委員会は、地方会を活性化することを目的とし、地方会のあり方を検討・協議し、役員会および会長に上申する。

(組織)

第3条 本委員会は、委員長1名、委員若干名を以って組織する。

(委員)

第4条 委員長は役員とし、役員会の議を経て、支部長が委嘱する。

2. 委員は、委員長が指名し支部長が委嘱する。
3. 委員の任期は2年とし、再任は妨げない。

(委員会)

第5条 本委員会は委員長が召集し、議長となる。

2. 本委員会の審議事項は、役員会に報告し、承認を得なければならない。

(業務)

第6条 本委員会は、第2条の目的達成のために次の業務を行う。

- 1) 若手、女性、メディカルスタッフの参加促進策を検討・協議する。
- 2) 地方会プログラムの充実化を検討・協議する。
- 3) その他必要な業務

(計画・予算)

第7条 委員長は、年度毎に業務計画とその遂行に必要な予算について、当該年度開始前に役員会に諮らなければならない。

(報告)

第8条 委員長は、任期終了時においては、任期中の活動報告を役員会に提出し、次期委員会へ引き継がなければならない。

(改廃)

第9条 この内規の改廃は、役員会の承認を得なければならない。

附 則 この内規は、令和元年9月28日より施行する。

令和2年9月5日一部改訂

一般社団法人日本循環器学会 関東甲信越支部 予防委員会内規

(設置)

第1条 関東甲信越支部運営内規第13条に基づき、本支部に一般社団法人日本循環器学会関東甲信越支部予防委員会（以下、「本委員会」という）を置く。

(目的)

第2条 本委員会は、循環器疾患等の予防に関する事柄について、協議・検討し、役員会上申することを目的とする。

(組織)

第3条 本委員会は、委員長1名、委員若干名を以って組織する。

(委員)

第4条 委員長は役員とし、役員会の議を経て、支部長が委嘱する。

2. 委員は、委員長が指名し支部長が委嘱する。

3. 委員の任期は2年とし、再任は妨げない。

(委員会)

第5条 本委員会は委員長が召集し、議長となる。

2. 本委員会の審議事項は、役員会に報告し、承認を得なければならない。

(業務)

第6条 本委員会は、第2条の目的達成のために次の業務を行う。

- 1) すべての国民の循環器疾患等の予防を推進する業務。
- 2) 予防活動を積極的に推進し、その重要性を社会に発信する業務。
- 3) 循環器疾患等の予防研究の実施ならびに支援。
- 4) その他、循環器疾患等の予防に関する必要な業務。

(計画・予算)

第7条 委員長は、年度毎に業務計画とその遂行に必要な予算について、当該年度開始前に役員会に諮らなければならない。

(報告)

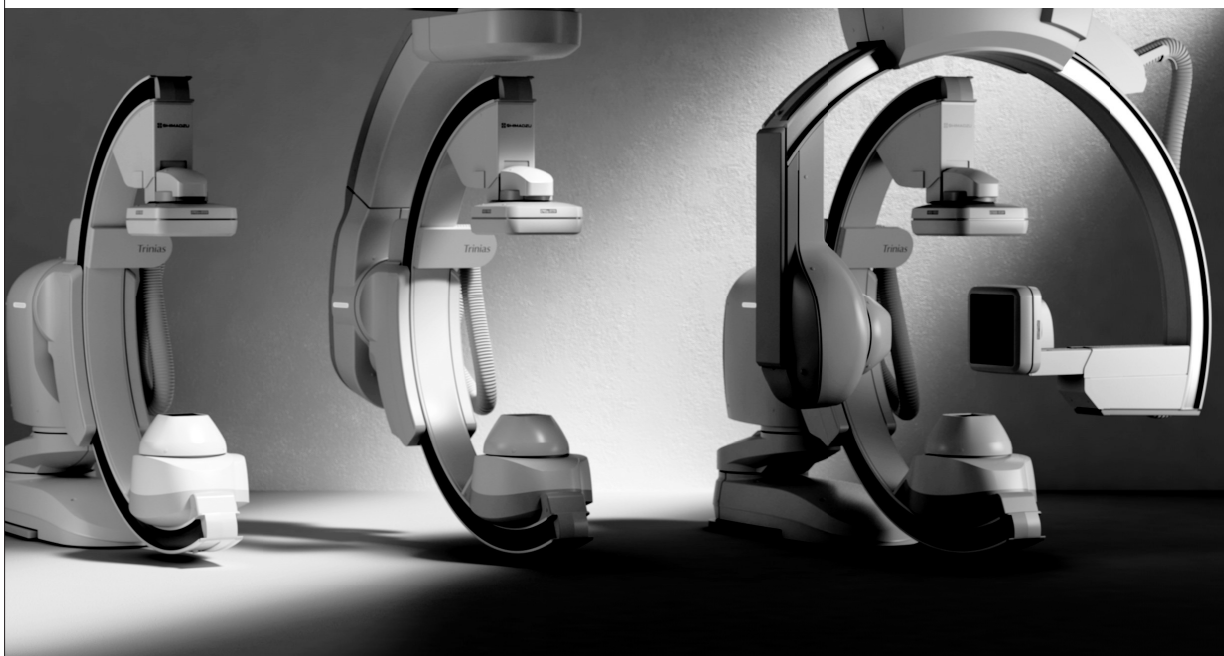
第8条 委員長は、任期終了時においては、任期中の活動報告を役員会に提出し、次期委員会へ引き継がなければならない。

(改廃)

第9条 この内規の改廃は、役員会の承認を得なければならない。

附 則 この内規は、令和元年9月28日より施行する。

令和2年9月5日一部改訂



血管撮影システム

Trinias

ALARA Design

Lean Design

Sustainable Design

現場の“リアル”を解決する

3つのコンセプトで生まれ変わった

血管撮影システム Trinias が

医療の現場をまた一步、未来へと進めます。

Scan me,
feel Trinias!



アドバンスドインターベンションシステム

ARTIS icono BC

Turn innovation into common practice

www.siemens-healthineers.com/jp



SIEMENS
Healthineers

据置型デジタル式循環器用X線透視診断装置 アーティス icono 認証番号: 301A8ZX00030000

DYNAMEDIC JAPAN
Accelerating the Possibilities

 ziosoft

Smart Imaging

“みる”をシンプル、スマートに。

独自の技術性能Revorabilityが
シンプルな操作性で驚異的なイメージングを可能にします。

 Revorability

イメージングインテリジェンス  **REVOBRAS**

 GOOD
DESIGN

 AMIN アミン株式会社

〒113-0033 東京都文京区本郷二丁目27番20号 本郷センタービル
Tel:03-5689-2323 Fax:03-5804-4130 www.hi-amin.co.jp

 ziosoft ザイオソフト株式会社

〒108-0073 東京都港区三田一丁目4番28号 三田国際ビル
Tel:03-5427-1903 Fax:03-5427-1907 www.zio.co.jp



www.zio.co.jp/revoras

一般的名称：汎用画像診断装置ワークステーション 販売名：ザイオステーション レヴォラス R L 認証番号 304ABBZX00001000 ADJP-2166b

AT-Patch

ATパッチ心電図レコーダ

 ATsens

連続7日間
記録可能

 1
time
USE

ディスプレイレス... メンテナンスフリー

 13g

小型軽量... 電池や電極、メモリー一体型



耐水機能 (IP44) ... シャワー入浴可



クリアなECG波形

販売名：ATパッチ心電図レコーダ 一般的名称：長時間心電図データレコーダ 認証番号：304AHBZX00022000

製造販売業者

日本ライフライン株式会社

〒140-0002 東京都品川区東品川二丁目2番20号
https://www.jll.co.jp

 Japan Lifeline

TEIJIN

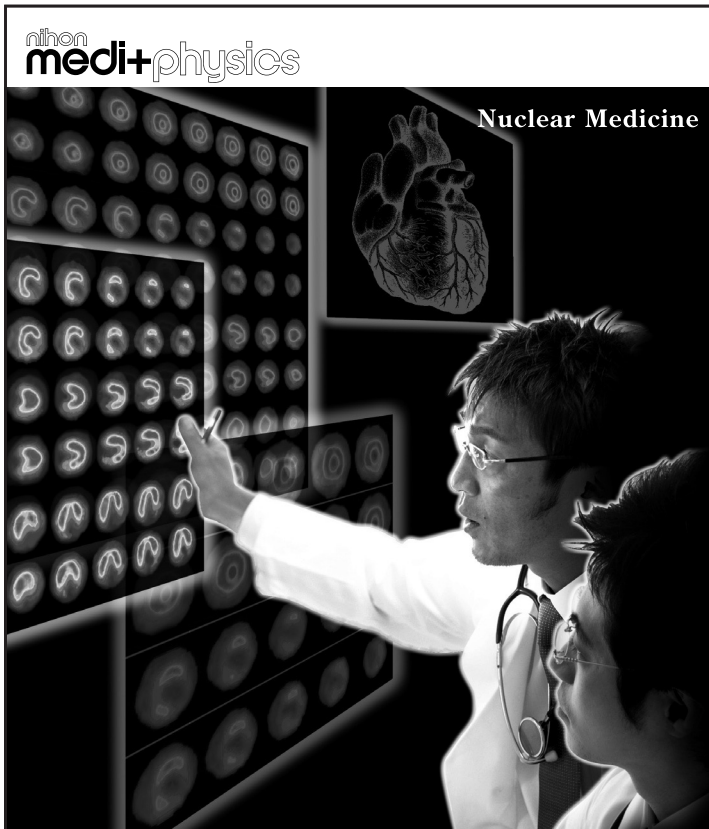
Quality of Life

患者さんの健やかな笑顔のために。

一人でも多くの方が
生きることを前向きにとらえ、
しあわせを感じられるように。

帝人ファーマ株式会社
<https://www.teijin-pharma.co.jp/>

PAD018-TB-2006



処方箋医薬品⁽²⁾ 薬価基準収載

放射性医薬品・心臓疾患診断薬・副甲状腺疾患診断薬
腫瘍(脳、甲状腺、肺、骨・軟部、縦隔)診断薬

塩化タリウム (²⁰¹Tl)注NMP

日本薬局方塩化タリウム (²⁰¹Tl)注射液

処方箋医薬品⁽²⁾ 薬価基準収載

放射性医薬品・心疾患診断薬

カルディオダイン[®]注

放射性医薬品基準15-(4-コードフェニル)-
3(R,S)-メチルペンタデカン酸 (¹²³I)注射液

処方箋医薬品⁽²⁾ 薬価基準収載

放射性医薬品・心臓疾患診断薬、心機能診断薬

マイオビュー[®]注シリンジ

放射性医薬品基準テロホスミンテクネチウム (^{99m}Tc)注射液

処方箋医薬品⁽²⁾ 薬価基準収載

放射性医薬品・心臓疾患診断薬、心機能診断薬

マイオビュー[®]「注射用」

放射性医薬品基準テロホスミンテクネチウム (^{99m}Tc)注射液調製用

[®]:登録商標

注)注意-医師等の処方箋により使用すること

■効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意等は、添付文書をご参照ください。

資料請求先



日本メジフィジックス株式会社

〒136-0075 東京都江東区新砂3丁目4番10号

製品に関するお問い合わせ先 ☎0120-07-6941

弊社ホームページの“医療関係者専用情報”サイトでSPECT検査について紹介しています。

<http://www.nmp.co.jp>

2016年3月改訂

**Boston
Scientific**
Advancing science for life™

WATCHMAN FLX™ Pro

LEFT ATRIAL APPENDAGE CLOSURE DEVICE



STOP THE STROKE
ONE TIME. FOR A LIFETIME.



製品の詳細に関しては添付文書等でご確認いただくか、弊社営業担当へご確認ください。
© 2024 Boston Scientific Corporation or its affiliates. All rights reserved.
All trademarks are the property of their respective owners.

販売名: WATCHMAN FLX 左心耳閉塞システム
医療機器承認番号: 30200BZX00383000

ボストン・サイエンティフィック ジャパン株式会社
本社 東京都中野区中野4-10-2 中野セントラルパークサウス
www.bostonscientific.jp
SH-1788402-AA



持続型 LDLコレステロール低下 siRNA 製剤 薬価基準収載

レクビオ®

皮下注 300mg シリンジ

LEQVIO® for s.c. injection syringe 300mg インクリランナトリウム塩類

処方箋医薬品 注意—医師等の処方箋により使用すること
最適使用推進ガイドライン対象品目

効能又は効果、用法及び用量、禁忌を含む注意事項等
情報等につきましては、電子添文をご参照ください。



製造販売（輸入） （文献請求先及び問い合わせ先）

ノバルティス ファーマ株式会社
東京都港区虎ノ門1-23-1 〒105-6333

ノバルティス ダイレクト 販売情報提供活動に関するご意見
TEL: 0120-003-293 TEL: 0120-907-026
受付時間: 月～金 9:00～17:30 (祝日及び当社休日を除く)

 NOVARTIS

2024年11月作成